

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2014 年 8 月

「ダニエル書と黙示録の研究」 「手を差し伸べることによってキリストを映す」

「第三天使のメッセージ『回復の働き』」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「ダニエル書と黙示録の研究」

4

イエスの聖書研究

朝のマナ

「手を差し伸べることによってキリストを映す」

11

キリストを映して

現代の真理

「回復の働き」

74

三重のメッセージ - 第三天使のメッセージ -

力を得るための食事

「お手軽フライドポテト」

84

お話コーナー

「パズルを組みあわせる」

86

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：http://www.4angels.jp

メール：support@4angels.jp

発行日 2014 年 7 月 31 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover and on page 7

Printed in Japan

「ことごとく美しい」 おかた

ゆりの花びらに神はあなたにおくることばをお書きになった—そしてそれは不信と自我と思わずらいを捨て去るときに、はじめてあなたの心が読むことのできることばである。さえずる小鳥ややさしい花を神がお与えになったのは、あなたの人生の歩みを明るく楽しいものにしようとする父の心からあふれ出る愛のゆえではなかったろうか。花や小鳥はなくても生存に必要なものはすべて与えられていた。だが神は、単に生存に十分なだけを備えることで満足ならなかった。

……

神は花を通して、わたしたちの注意をキリストのような品性のもつ美しさに向けようとしておられる。花にこれほどの美しさを与えたおかたは、それよりはるかにまさって、魂がキリストの品性の美しさに装われることを願っておられる。

野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。……だれが、ゆりのあの褐色のごつごつした球根の中に、美の可能性を想像することができるだろうか。しかし、その中に隠れている神の生命が、その呼びかけに従い、雨と日光を受けて開くとき、人々はその優雅で美しい姿に驚くのである。それと同じく、神の恵みの働きかけに従うすべての者の心の中に、神の生命が芽ばえるのである。……草花を創造したのは神のことばであるが、その同じことばがあなたのうちに、聖霊の実を生み出すのである。

神の律法は愛の律法である。神はあなたを美で囲み、あなたを地にお置きになったのは、あなたがただ自己にのみ没頭するためではなく、キリストの愛によって生活を輝かしく美しいものとするためであることを教えようとしたのである。それは、花のように、愛の奉仕によって人々に喜びを与えることである。

両親がたはどうか子供たちを草花の教訓によって教えていただきたい。子供たちを庭や野原や茂った木立のもとにつれて行って、自然の中から神の愛のことばを読みとることを教えなさい。……

神が大きな愛を持っておられるから、自分の性質は変えられて、神と調和するようになることを、子供たちに教えなさい。神はきれいな花を咲かせて彼らの生活を美しくしようと思っておられることを教えなさい。きれいな花を摘む子供たちに、花をお造りになった神は花よりもっと美しいおかたであることを教えなさい。そうすれば彼らの幼い心は神に信頼するようになり「ことごとく美しい」おかたであるイエスは彼らにとって毎日の生活の親しい友となることであろう。そして子供たちの生活は神の純潔なかたちに変えられていくことであろう。(祝福の山 119-121)

「ダニエル書と黙示録の研究」

牧師への証 112 ～ 119

* 先月のページ表記に誤りがありました。正しくは下記のとおりです。
誤) 福音宣伝者 1893 年版 p125 ～ 131 正) 牧師への証 105 ～ 112
お詫び申し上げます。

神の御霊は、聖書のすべての頁を明らかにしてきたが、理解が不完全であるがゆえに、ほとんど感銘を受けない人々がいる。偽りの理論が持ちこまれ、ふるいがおとずれるとき、どこにも錨をおろしていない、これらの表面的な読者たちは、移り変わる砂のようである。彼らは自分たちの苦々しい感情の傾向に合うどのような立場にでも陥るのである。……ダニエル書と黙示録を研究しなければならない。また同様に他の旧約と新約の預言を研究しなければならない。光あれ、しかり、あなたの思考に光あれ。わたしたちはこのために祈る必要がある。聖なる頁を照らしている聖霊は、わたしたちの理解力を開き、何が真理であるかをわかるようにして下さる。……

はるかにもっと厳密な神のみ言葉の研究が必要である。とくに、ダニエル書と黙示録にかつてなかったほど注意を払うべきである。わたしたちはある分野では、ローマ権力や法王権について言うべきことが少ないかもしれない。しかし、わたしたちは神の聖霊の靈感の下で預言者や使徒たちが記してきた事柄に注意を呼ぶべきである。わたしたちは預言者や使徒たちが神の聖霊の靈感の下に記してきたことに注意を喚起すべきである。聖霊は預言を与えることにおいても、描写されている出来事においても、事態をととのえて、人間の代理人はキリストのうちに隠され、人の視野に入らないようにすべきこと、また天の主なる神とその律法が高められるべきことを教えてこられた。ダニエル書を読みなさい。そこに表された王国の歴史の要点を一つずつ取り上げなさい。指導的政治家、議会、強力な軍隊、そして神がどのように人の誇りを低くし、人間の栄光をちに伏させられたかを見なさい。……

ダニエルが神から受けた光は、特別にこの終末時代のためである。彼がウライとヒデケル（チグリシ）、すなわちシナルの大川の岸で見た幻は、今や成就しつつあり、予告されたすべての出来事はまもなく起ころうとしている。

ダニエルの預言が与えられたときの、ユダヤ国家の状態を考えなさい。

聖書を研究するための時間をもっと取ろうではないか。わたしたちはみ言葉を理解すべきほどには理解していない。黙示録はそこに含まれている指示を理解するようにとの強制命令をもってわたしたちに開かれている。神は、「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである」と宣言しておられる。わたしたちが民として、この書が自分たちにとって何を意味するかを理解するとき、わたしたちの間で大いなるリバイバルが見られるようになる。わたしたちは、それを探り研究するようにとの命令が与えられているにもかかわらず、それが教える教訓を十分に理解していない。

過去の教師たちがダニエル書と黙示録は封印された書物であると宣言してきたので、人々はそれらに背を向けてきた。一見神秘に見える幕のために、多くの人々はそれを上げようとしなかったが、神ご自身のみ手が、ご自分のみ言葉のこれらの部分からそれを引き上げられた。「黙示（啓示）」という名前そのものが、封印された書であるという発言と矛盾している。「黙示」とは何か重要な事柄が明らかにされたことを意味している。この書の真理は、この終末時代に生きている人々に向けて語られたものである。わたしたちは聖所の聖なる事物から幕が取り除かれているところに立っている。外に立っているべきではない。わたしたちは入るべきである。ただし、不注意で不敬な思い、あるいは性急な足取りではなく、敬神と信心深い畏れをもって入るべきである。わたしたちは黙示録の預言が成就すべき時に近づいている。……

わたしたちには、神の戒めとイエス・キリストの証、すなわち預言の霊がある。神のみ言葉の中に価のつけられない貴重な宝石を見いだすはずである。この言葉を研究する人々は、はっきりとした思いを保っていなければならない。決して飲食においてゆがんだ食欲にふけるべきではない。

もし彼らがそうするなら、脳は混乱させられる。彼らは地上歴史の最終場面に関係したこれらの事柄の意味を深く掘り下げて探し出す負荷に耐えられない。

ダニエル書と黙示録をもっとよく理解するとき、信徒たちは全く違った宗教経験を持つようになる。彼らは開かれた天の門を垣間見て、それにより心の清い人々の報いとなるべき祝福を実現するためにすべての人が発達させなければならない品性について、心と思いに感銘を受ける。

主は、黙示録の中に明らかにされていることを、へりくだって柔和に理解しようと求めるすべての人を祝福して下さる。この書には大いに不死に関する部分と栄光に満ちた部分が多く含まれており、これを真剣に読んで探るすべての人は、「これを聞いて、その中に書かれていることを守る」人々への祝福を受けるのである。

真の研究の結果

黙示録の研究から確かに理解することの一つ、それは神とその民のつながりがいかに緊密で明確であるかということである。

全天とこの世の間にはすばらしいつながりがある。

ダニエルに表された事柄は後にパトモス島でヨハネに啓示されたことによって補完された。これらの二つの書は注意深く研究すべきである。ダニエルは二度、終りの時までどれくらいでしょうか、と尋ねた。

「わたしはこれを聞いたけれども悟れなかった。わたしは言った、『わが主よ、これらの事の結末はどんなでしょうか』。彼は言った、『ダニエルよ、あなたの道を行きなさい。この言葉は終りの時まで秘し、かつ封じておかれます。多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。しかし、悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう。常供の燔祭が取り除かれ、荒す憎むべきものが立てられる時から、1290日が定められている。待っていて1335日に至る者はさいわいです。しかし、終り

まであなたの道を行きなさい。あなたは休みに入り、定められた日の終りに立って、あなたの分を受けるでしょう。』。」

書物の封印を解いて、ヨハネに終わりの日に起こることについて啓示をお与えになったのは、ユダ部族のししであられた。

ダニエルは終わりの時、すなわち第一天使のメッセージがわたしたちの世に宣布されるべき時まで封印されていた自分の証を担うために自分の分において立っていた。これらの事柄にはこの終わりの時代に無限の重要性がある。しかし「多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られる」一方で、「悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはない」。これは何と真実であろう。罪は神の律法の違反である。そして神の律法に関する光を受け入れない人々は、第一、第二、第三天使のメッセージを理解しないのである。ダニエル書はヨハネへの啓示の中で封印が解かれ、わたしたちをこの地上歴史の最後の場面へと連れて行く。

わたしたちの兄弟たちはわたしたちが終わりの時代の危険のただ中に生きていることを心に留めているであろうか。ダニエル書と関連して黙示録を読みなさい。これらの事柄を教えなさい。

打ち勝ちがたい力が待っている

神の御子の肉を食べ、血を飲む人々は、ダニエル書と黙示録から聖霊の靈感を受けた真理を得る。彼らは押し返されることのない力ある行動を始める。子どもたちの唇は人々の思いから隠されてきた奥義を宣布するために開かれる。

わたしたちは偉大にして厳粛な事件の瀬戸際に立っている。預言の多くは次々と成就しようとしている。すべての力の要素が今にも働こうと整えられている。過去の歴史が繰り返されるであろう。古い争闘が新たによみがえり、四方から神の民を攻撃するであろう。激しさが人類家族を捕らえる。それは地上のあらゆるものに浸透している。……

黙示録をダニエル書と関連して研究しなさい。なぜなら、歴史が繰り返さ

れるからである。……わたしたちはあらゆる自分たちの宗教的な特権をもって、今知っているよりもはるかにもっと知らなければならない。

御使たちは真理を、すなわち悔いた心をもって神のみ言葉を探り、神だけがお与えになることのできる知識のさらなる長さ、広さ、深さ、高さを祈り求める人々に表される真理をうかがい見たいと願っている。

わたしたちが世界の歴史の終末に近づくにつれ、わたしたちは特に終わりの時代に関連した預言を研究しなければならない。新約聖書の最後の書は、わたしたちが理解する必要のある真理に満ちている。サタンは多くの人々の思いを曇らせたため、彼らは何でも喜んで黙示録を研究主題としないことの言い訳にしてきた。しかし、キリストはご自分のしもべヨハネを通して、ここに終わりの時代について宣言しておられる。すなわちこの方は、「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである」。

ダニエル書と黙示録は共に併せて出版されるべきである。ある部分について二、三の説明を加えても良いかもしれないが、わたしはそれらが必要であるかわからない。

これがヘスケル長老に提案したことであり、結果としてそれが彼の出版した書物となった。この書物によって必要が満たされるのではない。二つの書物、すなわちダニエル書に続いて黙示録と一緒にあわせ、ダニエル書で扱われている主題にもっと十分な光を与えるというのはわたしの考えであった。目的は、これらの書物を一緒にして、両方が同じ主題を述べていることを示すことであった。

諸教会を目覚めさせるメッセージが宣布されるべきである。光をわたしたちの民にばかりでなく、世界に与えるためにあらゆる努力が払われるべきである。わたしはダニエル書と黙示録の預言が小さな書物に、必要な説明と一緒に印刷され、世界中に送られるべきことを示された。わたしたち自身の民が自分の前におかれた光をはっきりとした道筋の中でとらえる必要がある。

神の戒めとイエスの信仰を提示しているヨハネに提示されたキリストの幻は、あらゆる国民、民族、国語にはっきりと宣布されるべきである。バビロン

によって象徴されている諸教会は、その霊的な状態から墮落し、神の戒めを守り、イエス・キリストの証を持つ人々に敵対して迫害する権力にまでになるものとして表されている。ヨハネに、この迫害する勢力は小羊のような角を持っているが、龍のように語るものとして現されている。……

わたしたちが時の終わりに近づくにつれ、ますます異教の権力の外面的な誇示ははなはだしくなるであろう。異教の神々は彼らの顕著な力をあらわし、自らを世界の諸都市の前に示す。そしてこの描写はすでに成就し始めている。さまざまな偶像によって、主イエスはヨハネに、神の民の迫害で顕著な魅惑的な感化力の邪悪な性質を表された。すべての人はこの地上歴史を終焉させるのに大いに関わっている不義の神秘を注意深く探り出すために知恵が必要である。……わたしたちが生きているまさにこの時代に、主はご自分の民を召し、彼らに担うべきメッセージをお与えになった。日曜休業令を顕著な力とし、時と律法を変え、また唯一の真の安息日、すなわち創造の安息日を主に聖なるものとして守ることによって誉れを帰すために固く立つ神の民を圧迫しようと願う不法の者の悪をあばくようにと主は彼らを召しておられる。

終わりの時代の危険がわたしたちに迫っており、わたしたちの働きにおいて、人々の陥っている危険について警告しなければならない。預言が表している厳粛な光景に触れずにいることがないようにしよう。もしわたしたちの民が半分目覚めるなら、もし彼らが黙示録の中で描かれた出来事の切迫を自覚するなら、わたしたちの諸教会の中で改革がなされ、そして多くの人々がメッセージを信じるはずである。わたしたちは少しも時間を無駄にしてはならない。神は会計報告を出さなければならない者として魂を見張るようにわたしたちを召しておられる。新しい原則を前進させ、明快な真理をつぎ込みなさい。それはもろ刃の剣ようになる。しかし、すぐに論争的な態度をとるようなことがあってはならない。わたしたちが落ち着いて、神の救いを見なければならない時がある。ダニエルに語らせなさい、黙示録に語らせなさい。そして何が真理であるかを語りなさい。しかし、どの局面の主題であっても、イエスをあらゆる希望の中心、「ダビデの若枝また子孫であり、輝く明けの明星」として掲げなさい。

より深く掘り下げる

わたしたちは真理の探究において十分掘り下げていない。現代の真理を信じるすべての魂は自分のうちにある希望の理由を述べるよう求められる立場におかれることになる。神の民は諸王、君主、役人、地上の偉人たちの前に立つよう召されることになるのであるから、何が真理であるかを自分が知っていることを確認しなければならない。彼らは改心した男女でなければならない。神はご自分の聖霊によって、地上の偉人たちから学ぶよりも多くのことを一瞬でお教えになることができる。宇宙は、地上で行われている争闘を眺めている。無限の代価をもって、神は救いに至る知恵を得させる事柄を知る機会を、すべての人に提供してこられた。御使たちはどれほど熱心にだれがこの機会をわがものとするかを見たいと思っていることであろう。メッセージが神の民に提示されたなら、彼らはそれに反対するために立ち上がるべきではない。彼らは聖書の許へ行き、それを律法と証とに照らし、もしそれがこのテストに耐えられないとすれば、それは真実ではないのである。神はわたしたちの思いが拡張することを望んでおられる。このお方はご自分の恵みをわたしたちに注ごうと望んでおられる。わたしたちは日々良い物の宴を持つことができる。なぜなら、神はわたしたちに天のすべての宝を開くことがおできになるからである。

キリストを映して

Reflecting CHRIST



8月 「手を差し伸べることによってキリストを映す」

8月1日

あわれみ深い人へのキリストの称賛

「あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。」
(マタイ 5:7)

主イエスは「あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう」と言われた。今日ほどあわれみを働かせることが必要であった時はかつてなかった。貧しい者、悩んでいる者、苦しんでいる者、悲しんでいる者、滅びるばかりの者がわたしたちの周りの至る所にいる。

富を持っている者は神から自分たちに与えられたタラントを用いることによってそれらを得ている。しかし財産を得るためのこれらのタラントは、彼らが貧しい者を救済できるために与えられたのであった。これらの賜物を人に授けてくださったのは、正しい者にも正しくない者にもご自分の太陽を照らし、雨を降らせて下さるお方であり、それは人類が地の豊かな実りによってそのすべての必要を豊かに満たされるためであった。畑は神に祝福され、またこのお方が貧しい者のために備えられた良きもので祝福されている。

あわれみと愛という属性が人の心の中で絶えず働かされるように、神のみ摂理のうちに常に貧しい人々がわたしたちと共にいるように諸事件がとりはかられてきた。人はキリストの優しさと思いやりを培うべきである。彼は自らを、悲しむ者、苦しんでいる者、困窮している者、悩んでいる者から切り離すべきではない。(サイン・オブ・タイムズ 1892 年 6 月 13 日)

世界は貧困と苦しみで満ちていると神につぶやく者が多くいるが、神は決してこの悲惨さが存在するように意図されたことはなかった。神は決して、ひとりの人があり余る贅沢な暮らしをする一方で、他の人々の子らがパンを求めて泣き叫ぶように意図されたのではなかった。主は慈愛の神であられる。(教会への証 6 卷 273)

手を差し伸べることによってキリストを映す

もし人々が自分の主の財産の忠実な管理者として自分の義務を行うなら、パンを求める叫びはなく、だれも欠乏に苦しむことはなく、裸な者も、困窮している者もないのである。人類が落ち込んでいる苦難の状況をもたらすのは、人々の不忠実さである。神が管理者になされた者が、もし自分たちの主の財産を、与えてくださった目的に充当しさえすれば、この苦難の状況は存在しないのである。主はちょうど譬の金持ちをテストなさったように、人々に良いものを豊かにお与えになることによって、彼らをテストなさる。もし、わたしたちが正しい富において自分が不忠実であることを示すなら、だれが真の富をわたしたちに委ねるであろうか。主人の唇から「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう」との言葉を聞くのは、この地上でテストに耐えた者、忠実であることを見出された者、あわれみ深くあって主の王国の前進のために自分の財産を用いることにおいて、主のみ言葉に従ってきた者である。(レビュー・アンド・ヘラルド 1894 年 6 月 26 日)

8月2日

イエスは人類ひとりびとりにとって 友であられた

『見よ、わたしは御旨を行うためにまいりました』とある。』（ヘブル 10:9）

神なる教師としてのキリストの威厳は祭司や支配者の威厳よりも高位のものであった。それは、すべての世的な誇示からはっきり区別されていた。なぜなら、それは神のものだったからである。このお方は世的な誇示を一切除外し、ご自分が富や地位によって定められる社会の分類には何の価値も認めておられないことを示された。このお方は……人に神の子となる力をもたらすために、ご自分の高い指揮権から降りてこられた。だから、地上の階級はこのお方にとって少しの価値もなかった。このお方は天使たちが人類を贖うご自身の働きにおいて助ける際には、ちよろずの天使をつれてくることがおできになったのである。

キリストは金持ちの家庭、王族の宮殿、学識者の高名な座のそばを通り過ぎ、世に知られていない軽蔑されたナザレをご自分の家とされた。このお方の生涯は、はじめから終わりまで低くへりくだった生涯であった。貧困はこのお方の貧困の生涯によって神聖にされた。どんなに身分が低くても男女がご自分のみ前に来て、その教えを聞くことができるように、彼らを締め出すような威厳をまもつたりはなさらなかった。……

わたしたちの主イエス・キリストのように、これほど目覚しい名誉を人に与えた教師はかつていなかった。このお方は取税人と罪人の友として知られていた。このお方はどの階級の人とも交わり、世に真理の種をまかれた。市場や会堂でこのお方はご自分のメッセージを宣言なさった。このお方は、霊肉共に、どんな種類の苦しみでもやわらげてくださった。このお方はすべての水のほとりに真理の種をまかれた。このお方のただ一つの願いは、すべての者が霊肉

手を差し伸べることによってキリストを映す

共に健康であることであった。このお方はすべての人の友であられた。このお方はご自分を受け入れるすべての者に生命と光をもたらすことを誓われなかったであろうか。彼らに神の子となる力を与えると誓われなかったであろうか。このお方は魂を救う働きのために、余すことなくすっかりご自身をお与えになったのである。……

このお方が「良いことをしながら巡回され」たとき、日々の経験はこのお方の命のほとばしりであった。そのような生活を維持できるのはただ一つの方法によってである。イエスは神により頼み、このお方との交わりのうちに生活された。人は時折、至高者の密室へ、全能者の陰へ赴く。彼らはしばらくの間宿り、結果は気高い行為にあらわれる。その後、彼らの信仰は衰え、交わりは妨げられ、一生の仕事が損なわれる。しかし、イエスの生活は絶え間ない信頼の生活、継続的な交わりによって支えられた生活であった。そして、天と地のためのこのお方の奉仕は失敗することもたじろぐこともなかった。このお方は人として、人性を神性とつなげる天来の流れでご自分の人性が充電されるまで、神の御座に嘆願なさった。神から生命を受けて、人々に命をお与えになったのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1905 年 6 月 7 日)

8月3日

わたしの隣人とはだれですか

『この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣人になったと思うか』。彼が言った、『その人に慈悲深い行いをした人です』。そこでイエスは言われた、『あなたも行って同じようにしなさい』。(ルカ 10:36, 37)

わたしたちの同情と親切な世話を必要としている人は、だれでもわたしたちの隣人である。どんな階級でも苦しみ困窮している者は、わたしたちの隣人である。そして、彼らの必要がわたしたちにわかったときには、できる限りそれらをやわらげることがわたしたちの義務である。(教会への証 4 巻 226, 227)

神を愛する者は人類同胞を愛するだけでなく、神が造られた被造物を優しい思いやりをもって見る。神の御霊が人のうちに宿るとき、それによって彼は苦しみを生み出すよりは、和らげるようになる。

主は自分の同胞に対する祭司やレビ人の無関心と無視をあらわにされた後で、良いサマリヤ人を紹介された。彼はその道を通って長旅をしていたが、苦しんでいる人を見たとき彼に同情した。なぜなら、彼は律法を行う人だったからである。これは実際の出来事であって、まさに表されたとおりの事件として知られていた。キリストは……旅行者のうちのだれが、強盗に襲われた者の隣人であったかをお尋ねになった。……軽蔑されていた人々のひとりであったサマリヤ人は、自分の苦しんでいる兄弟を介抱し、反対側を通り過ぎることはしなかった。彼は自分が同じような状況にあるとき取り扱ってもらいたいと思うように自分の隣人を取り扱ったのであった。

この譬によって自分の同胞への人の義務は永遠に決着がついた。わたしたちはすべて苦しんでいる事情を心にかけ、自らを能力の限りを尽くして困窮している人を救済する神の代理人だとみなすべきである。わたしたちは神の同労者となるべきである。自分の親戚や友人やお気に入りの人には特別の愛情を示

手を差し伸べることによってキリストを映す

しながら、優しい同情や親切、愛を必要とする人々に対しては親切や思いやりを示さない人々がいる。

熱心な心で、だれがわたしの隣人であるかを尋ねよう。わたしたちの隣人は単に自分の親戚や親友だけではない。またわたしたちの教会に属している人々だけでもなく、あるいは自分たちと同じように考える人々だけでもない。わたしたちの隣人とは、全人類家族である。わたしたちはすべての人に、特に信仰の家族に、善を行わなければならない。わたしたちは神の律法を实践することが何を意味するのかを世に見せなくてはならない。(レ・ユー・アンド・ヘラルド 1895 年 1 月 1 日)

近隣を戸別に訪ね、あなたの無私の関心と愛によって彼らの心が温められるまで彼らと親しくなりなさい。彼らに同情し、彼らのために祈り、彼らに善をなす機会を見張り、できるときには数名を集めて、彼らの暗くなっている思いに神の御言を開きなさい。人々の魂のために申し開きをしなければならない者として見張り続けていなさい。そして、神がご自分の道徳的なぶどう畑で共に働くためにあなたに与えてくださった特権を最大限に生かしなさい。(レ・ユー・アンド・ヘラルド 1888 年 3 月 13 日)

8月4日

真の医事伝道者に従っていく

「それからイエスは弟子たちに言われた、『だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。』」(マタイ 16:24)

偉大な医事伝道者なるキリストが労されたように労する者は、霊的な思いを持つ者でなければならない。しかし、医事伝道の働きをしているすべての者が、神とこのお方の真理を高めているわけではない。すべての者が聖霊の導きに服しているわけではない。……

何が福音医事伝道の働きを構成しているかをあなたに提示するために、わたしは神からの知恵と力をいただくことができるように祈っている。これはわたしたちの宗派の働きの大きく重要な部門である。しかし、多くの者は医事伝道の働きを受け入れられるものとする根底の純粋で気高い原則を見失っている。……

どの言葉であれば、わたしたちの贖罪のためのご自分のひとり子という賜物に表された人類家族への神の愛を、力強く表現することができるであろう。罪のないお方が、罪人の懲らしめを負われた。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」……

真の伝道者のキリストの定義を研究しなさい。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」。

これらの言葉のうちに語られているようにキリストに従うことは、見せかけではない。……イエスはご自分の弟子たちがご自分のみ足の跡に厳密に従い、ご自分の耐えたことに耐え、苦しまれたことに苦しみ、勝利されたことに勝利するよう期待しておられる。このお方は切なる思いをもってご自分に従うと公

手を差し伸べることによってキリストを映す

言する人々が自己否定の精神を表すのを見ようと待っておられる。

キリストを個人的な救い主として受け入れる人々、このお方の苦しみにあずかる者となり、このお方の自己否定の生涯を生き、このお方のために恥辱に耐えることを選ぶ人々は、本物の医事伝道者になるということが何を意味するかを理解するようになる。

わたしたちのすべての医事伝道者がキリストのうちに新しい命を生き、彼らがこのお方のみ言葉を自分の導き手として受け入れるとき、彼らは何が本物の医事伝道を構成しているかについてもっとはっきりとした理解を得るようになる。この働きは、彼らが、神のみ手によって石の板に刻まれた律法、すなわち安息日の戒めを含む、キリストご自身がモーセを通してイスラエルの子らに語られたことに従うとき、もっと深い意味を持つようになる。……

わたしは、あなたの指導者なるお方に従いなさい、と言うように指示されている。このお方は道であり、真理であり、命であられる。このお方はあなたの模範であられる。すべての医事伝道者に、キリストの無私の奉仕のご生涯をつねに視野に入れておく責任がある。彼らは自分の目をイエスに固定しているべきである。(バプティック・ユニオン・レコーダー-1903 年 12 月 17 日)

8月5日

世はキリストの啓示を必要としている

「それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」(ピリピ 2:15)

全国各地の思慮深い、神をおそれる人がびつくりするような「罪惡の流行」の中に、わたしたちは生活している。このように流行している墮落は、とうてい筆舌につくし得ない。毎日、新しい政争、贈賄事件、詐欺行為が発覚する。また心を痛める暴動、不法、人間の苦痛に対する冷淡、さらに極悪、残忍な人命破壊の話を書く。また精神病、殺人、自殺も日々に増加していく。サタンの使が人間の間に働いて、人心を迷わし、墮落させ、身体を汚し、破壊しようとして、ますます活動していくのをだれも疑うことができない。

しかも、世界にこうした悪が満ちているのに、福音はあまりにも無関心すぎる態度で宣伝され、人の良心や生活にほとんど感動を与えていない。自分が持っていないものを求めている人は各地にいて、罪に打ち勝つ力、惡の束縛から救い出してくれる力、健康と生命と平和を与える力を待ち望んでいる。一度神のみ言葉の力を知りながら、多くの人が、神の認められていない場所に生活し、しかも神が共におられることを切望している。

世界が千九百年前に必要としたもの、すなわち、キリストの黙示は今日も必要であり、大改革運動が要求されているが、肉体と知能と精神の回復の働きはキリストの恵みによって初めて完成されるものである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 114)

神の恵みにあずかるすべての者に、主は人のために働く任務をお定めになっている。わたしたちは各自の立場立場において、「ここにわたしがおります。

手を差し伸べることによってキリストを映す

わたしをおつかわしてください」と言わなければならない（イザヤ書 6:8）。み言葉を伝える伝道者、伝道にあたる看護婦、クリスチャンの医者、商人や農夫、知能的な仕事をする者も、職人である者も、クリスチャンであれば、それぞれすべての者に責任が負わされている。人々に救いの福音を示すのがわたしたちの仕事である。わたしたちがやろうとすることは、すべてこの目的に達する手段でなければならない。……

神の摂理にしたがって、自分の召されたところで働けるように全員が体力と知能をできる限り発達させるべきである。パウロとアポロがキリストから受けた恵み、すなわち、ふたりを霊的に卓越させ、有名にしたのと同じキリストの恵みが、今日、献身的クリスチャンの伝道者に向かって与えられる。まちがうことのない明るさと力をもって神の栄光が今の世に示されるために、神の子が知恵と知識を有するように神はお望みになっている。（同上 121, 122）

8月6日

奉仕と自己否定において キリストに従う

「かえって、おのれをむなしくして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。
その有様は人と異ならず」(ピリピ 2:7)

どれほど多くの人々が、状況が変わるまでは、キリストを受け入れ、一見クリスチャン生活を送ることであろう!彼らは財産を持つようになるかもしれない。こうして神は彼らを試し、彼らが賢明な管理者かどうかをお調べになるのである。しかし、彼らは試験に合格することができない。彼らは飢えた者に食べさせ、裸の者に着せるために用いられるべきものを自己を喜ばせるために用いる。欠乏と困窮の中で、神の子らは神に叫んでいる。多くの人々は生活の必需品に欠乏して死んでいつている。……

警告されるべき世がある。わたしたちにこの働きが委ねられている。どんな価を払っても、わたしたちは真理を実践しなければならない。わたしたちは自己犠牲の緊急招集兵として立ち、神の奉仕において必要であれば喜んで命そのものの損失をさえこうむるのである。短期間になされなければならない働きがある。……神に仕えるための高尚で決然とした努力によって、ついに勝利者とされるすべての人は、キリストの義で覆われる権利を得るのである。サタンに対する十字架の軍隊に入り、キリストの十字架の血染めの旗印を高く掲げる—これがすべてのクリスチャンの義務である。……

説教するのが最も難しく実践するのが最も困難なのは、自己否定である。貪欲な罪人、すなわち自己は、なしえたはずなのに、利己的な目的のために投資されてしまった金銭のゆえになしえなかった善に対して扉を閉じる。しかし、神の恩寵を維持し、救い主との交わりを楽しみながら、同時にキリストのうちに命を持たず、自分の罪のうちに滅びつつある同胞仲間の利益に無関心

手を差し伸べることによってキリストを映す

であることは、不可能である。

キリストはわたしたちに自己犠牲のすばらしい模範を残してくださった。このお方は自己を喜ばせず、ご自分の命を他の人の奉仕のうちに費やされた。このお方は一步ごとに犠牲を払われた。すなわち、このお方に従う者のうちだれ一人として払ったことのない犠牲を払われたのであった。なぜなら、彼らはこのお方が地上に来られる前に占めておられた地位を占めたことがないからである。このお方は天軍の司令官であられたが、罪人のために苦しむためにここに来られたのであった。このお方は富んでおられたのに、わたしたちのために貧しくなられた。それはこのお方の貧しさを通して、わたしたちが富むものとなるためであった。この方はわたしたちを愛しておられたがゆえに、ご自分の栄光を脇へおき、しもべのかたちを取られたのであった。このお方はわたしたちのためにご自分の命を下された。わたしたちはこのお方のために何を捧げているであろうか。……

わたしたちが自己否定の道においてこのお方に従い、十字架を掲げ、御父の家までこのお方の後について行くことにより、わたしたちは自分の生活においてキリストの命の美しさを表すのである。自己犠牲の祭壇—神と魂が会うために定められた場所—で、わたしたちは神のみ手から心を探り、キリストに宿っていただく必要を明らかにする天のたいまつを受け取る。(レビュー・アソッド・ヘラルド 1907年1月31日)

8月7日

神の愛は光を与えることができるようにする

「飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼ようになる。」（イザヤ 58:10）

わたしたちのあたり一面に、世の人びとの悲しい叫びが聞こえる。どちらを向いても、欠乏と困窮に陥っている者がいる。人生の困難や悲慘を和らげ、救うことが、わたしたちの務めである。

実際の行為は、単なる説教以上に、はるかに効果がある。わたしたちは、飢えた者に食を与え、裸の者に着せ、家なき者に宿を与えなければならない。いや、それ以上のことをするように命ぜられている。魂の欠乏を満たすことができるのは、キリストの愛だけである。もし、キリストがわたしたちの中に宿っておられるならば、心は神からの同情と、キリストのような熱烈な愛の泉がせきを切ってわき出ることであろう。

神は、わたしたちが、困っている人びとに、贈り物をするだけでなく、快活な顔をして希望にあふれたことばを語り愛のこもった親切な握手をすることを求めておられる。キリストは、病人をおいやしになったときに、人びとの上に手をおかれた。そのように、わたしたちも助けようとする人びとに近く接触しなければならないのである。

世の中には、希望を失っている者が多い。彼らに、太陽の光を取りもどしてやろう。勇気のくじけた者が多い。彼らに、励ましのことばを語り、彼らのために祈りをささげよう。命のパンが必要な者もある。彼らには、聖書を読んで聞かせよう。地上の医者や薬ではいやされない心の病に苦しんでいる者もある。わたしたちは、そのような人のために祈り、イエスのところへ連れて来よう。そして、ギレアデには、乳香があり、そこに医者がいることを知らせよう。

手を差し伸べることによってキリストを映す

光は祝福である。それは、恩を知らず、神聖を汚す、腐敗した世界に、おしみなく宝を注ぎ出す普遍的祝福である。義の太陽の光もこれと同じである。全地は、罪と悲しみと痛みという暗黒に包まれているから、神の愛の知識によって照らされなければならない。天のみ座から輝く光は、宗派、階級、地位のいかに問わず、どの人からも除外されてはならない。

希望とあわれみの使命は、地の果てまでのべ伝えるべきものである。望む者はだれでも、手を伸ばして神の力を自分のものとし、神と和らぎ、平和を得ることができる。異教徒も暗黒に閉ざされている必要はない。輝かしい義の太陽の光の前では、やみは消え去らねばならない。……

天からの使者が金の油を金の管に入れ、その油が金の器から聖所の燈台に流れ込んでいくことによって、光があかあかと輝いたのである。人間も神の愛が絶えず注がれることによって、光を放つことができる。すべて、信仰によって、神と結合した者の心には、愛という金の油が豊かに流れ込んで、よい行ないや、神に対する真心からの奉仕となって輝きでるのである。(キリストの実物教訓 393, 394)

8月8日

愛、行動の支配的原則

「子たちよ。わたしたちは言葉……だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。」(ヨハネ第一 3:18)

神の愛は、キリストがお示しになった同じやさしい同情を示すようわれわれに求めるとき、人の心に最も感動的な訴えをする。兄弟に対して無我の愛を持つ人だけが、神のために真実の愛を持っている。ほんとうのクリスチャンは、危険や欠乏の中にいる魂に、警告や保護を与えもせずにその人を去らせたいと思わない。彼は、魂が更に不幸や失望に陥っているのに、あるいはサタンの戦場に倒れているのに、身を誤ったその人たちから超然としていることはできない。

キリストのやさしい、心をとらえる愛を経験したことのない人たちは、ほかの人々をいのちの泉に導くことはできない。心のうちにあるキリストの愛は、強く迫る力であり、それは会話をとおし、やさしい同情に満ちた精神をとおし、彼らが交わっている人々の生活の向上をとおしてキリストをあらわすよう彼らを導く。クリスチャンの働き人が仕事の成果をあげるには、キリストを知らなければならぬ。そして、キリストを知るには、キリストの愛を知らなければならぬ。天では、働き人としてふさわしいかどうかは、キリストが愛されたように愛し、キリストが働かれたように働く彼らの能力によって量られる。

「わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか」と使徒ヨハネは書いている。人を助け、人を恵みたいという衝動が絶えず心からわき出るときに、クリスチャン品性は完成する。信者の魂をとりまくこの愛の雰囲気、彼をいのちからいのちにに至らせるかおとし、その働きを神に祝福されるものとするのである。

神に対する最高の愛、互いの無我の愛、これこそ、天父がさずけて下さる

最上の贈物である。この愛は衝動ではなく、きよい原則、永遠の力である。献身していない心は愛を起こすことも、生じることもできない。イエスに支配されている心にだけ愛は見いだされる。「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。」神の恵みによって新たにされた心にとって、愛は行動の主原則である。愛は性質を修正し、衝動を支配し、感情を制御し、愛情を高める。心に抱かれたこの愛は、人生を麗しくし、清澄にする感化を周囲に与える。

ヨハネは、愛の精神を実行するときにやってくる高尚な特権を信者に理解させようとした。このあがないの力は、心を満たして、他のすべての動機を支配し、その人を世の墮落した感化の及ばないところに高める。そしてこの愛が十分に力を発揮できるようになり、また、人生における原動力になったとき、神と、彼らに対する神の取り扱いとに対する信頼と確信は完全になる。(患難から栄光へ下巻 253 ～ 255)

8月9日

光線を他の人々に反射する

「愛と善行とを励むように互に努め」(ヘブル 10:24)

クリスチャンである旅人は闇の中を歩むままにしておかれない。イエスが道を導いてくださる。このお方に従う人々はこのお方のご臨在という日光のうちを歩む。旅人がたどる道ははっきり明示されている。キリストの義は彼の前を行く。すなわちその義とは、すべての真のクリスチャンの生涯が善行によって特徴づけられることを可能にする義である。神が彼のしんがりであられる。彼はキリストが光の中におられるように光のうちを歩む。彼がクリスチャンの旅路を進んでいくとき、他の人々を勝ち得て自分と連れ立っていくように熱心な努力を信仰に結合させる。絶えずキリストのご臨在の光を受けて、絶えずこの光を励ましの言葉や自己否定の行いにおいて他の人々に反射させる。彼は神の律法への従順というしるしを帯びており、このしるしは、彼を他の永遠の命に至る道に従っていない人々から区別するのである。……

光のうちを歩む人は、……旅人仲間を愛と善行に駆り立てる使徒の訓告に注意を払う。他の人々の必要を注意深く考慮する人々、優しい同情の言葉を語る人々、他の人々に思いやりのある援助を差し伸べ、その働きにおいて彼らを助ける人々は、自分の同胞だけでなく、自らをも励ますのである。なぜなら、こうして彼らは神と共に働く共労者となるからである。……

足のなえている者が踏みはずすことのないように、まっすぐな道をつくるようにしよう。だれも他の人が作った曲がった道に行かないようにしなさい。なぜなら、そうすることによって、自分が迷うだけでなく、その曲がった道をだれか他の人がついて行きやすいようにもっと平坦にすることになるからである。……自分自身に関しては、従順の道を歩むことを決心しなさい。自分が全能

手を差し伸べることによってキリストを映す

者の広い盾の下に立っていることをしかと知りなさい。エホバの特質があなたの生涯に表されなければならないこと、またあなたのうちに、あなたの品性を神のすがたに形づくる働きが成し遂げられなければならないことを理解しなさい。万物の頭なるお方の導きに自らを明け渡しなさい。……

光を語り、光のうちに歩みなさい。「神は光であって、神には少しの暗いところもない」。自己を喜ばせるために研究してはならない。自己を見失い、自分の罪のうちに滅びつつある群集を見なさい。あなたの魂に世の光であられるお方からしか、もたらされない勇気を集めなさい。自己を忘れ、手を差し伸べることのできる周囲の人々を助けなさい。信仰を語りなさい。そうすれば、あなたの信仰は増し加わる。……あなたの生涯が光線を他の人々に反射するように歩みなさい。イエスの愛に信頼しなさい。そうすれば、あなたは滅びつつある魂を救う恵みを持つようになる。あなたの道は義人の道のように―「夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる」。(サインズ・オブ・タイムズ 1903年6月3日)

8月10日

わたしたちは魂を 天に結びつけることができる

「主はわたしたちに、こう命じておられる、『わたしは、あなたを立てて異邦人の光とした。あなたが地の果までも救をもたらすためである』」（使徒行伝 13:47）

多くの自称クリスチャンたちは、礎石の上に木、草、または、わら、すなわち終わりの日の火が焼き尽くすものを置いている。彼らは疲れる仕事、黄金の時を占める仕事に携わっている。しかし、それらはなす必要のある仕事ではない。彼らの時間はとられ、彼らの精力は使い果たされるが、この世の生涯においても、将来の不死の生涯においても貴重な報いはもたらさないのである。霊的な働きが思いを占め、タラントがイエスの奉仕に用いられるならば、なんという違いが見られることであろう。このお方がわたしたちに与えてくださった光は、そのとき、他の人々に凝縮された光線として輝き出るのである。わたしたちがイエスのためになすすべてのことは、わたしたちがこの世の生涯をもっと楽しむことができるようにする。

ああ、すべての人が、わたしが見たように、自分の最高の能力を尽くして謙遜とへりくだりのうちに、魂がイエスの御許へ行くことを助けるために労する人々の喜びを見ることができるなら。ああ、自分という器を通して救われた魂が、天の住まいで感謝を表現するときの働き人たちの喜びを見ることができるなら！

キリストこそ唯一の贖い主として栄光を帰せられるのであるが、救われた人々から自分たちの救いに携わった人間の器へ感謝があふれるであろう。自分たちを救出してくれた人々のへの感謝は次のような言葉で表現されるであろう。「わたしは自分の贖い主に対する恥辱と罪の道をたどっていました。あな

手を差し伸べることによってキリストを映す

たはわたしの魂のために愛を表してくれました。あなたはわたしに神のみ言葉を開いてくれました。わたしは破滅の淵にいました。あなたの祈り、あなたの涙の嘆願、あなたの真剣な関心がわたしの注意を捕らえました。わたしはあなたに真理があるに違いないと思いました。さもなければ他の人々の救いにこんなに真剣になれるはずがないと。わたしは自分で神のみ言葉を読みました。そしてあなたが教えてくれた真理を見出しました。わたしは救われています。そしてわたしの贖い主をその比類のない憐れみと許しの愛のために賛美します。」

自分には少ししかできないと思う人は、その少しをするために一つ一つの機会を活かすべきである。それは最も長い鎖のもっとも小さい環かもしれない。他の感化力と離れては、ほとんど価値がないように見えるかもしれない。しかし、環境という神の大いなる鎖の中で、それは魂を天へ結びつける輪となることができる。すべての人はもしその気があれば何かをすることができる。しかし、あまりにもしばしば利己心は、なしえたはずのことをするのを妨害し、ついに救うことができたはずの魂は人間の努力の届かないところへ行ってしまうのである。

親愛なる兄弟姉妹がた、あなたがたは神聖な啓発を必要としている。あなたがたが世の贖い主と持つべきつながりを持っているならば、同胞仲間を救うために迅速で断固とした個人的努力を払うよう導かれるのである。神の民の将来は現在にかかっている。(サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 1 月 28 日)

8月11日

人をとる漁師は 神のご臨在を必要としている

「話がすむと、シモンに『沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい』と
言われた。……そしてそのとおりにしたところ、おびたしい魚の群れがはいって、
網が破れそうになった。』（ルカ 5:4～6）

生きた信仰のうちにイエスに従い、このお方の栄光だけに目を留めているす
べての人は、失望落胆していた漁師たちが、奇跡的なおろし網で自分たちの
船がいっぱいになったのを見たのとまったく同じくらい確実に、神の救いを見
るようになる。彼らが魚を捕まえる努力において成功したのは、キリストが彼
らの船におられたからであった。救い主の内なるご臨在は、まったく同様に、
魂を勝ち取る働きにおいて必要である。

人類を救うために、天の大君、栄光の王なるキリストは、ご自分の王冠と
王衣をわきへおき、ご自分の神性に人性をまとい、わたしたちの贖い主として、
この地に来られた。33年の間、このお方は人々の間で、人の生涯を送り、わ
たしたちが会わなければならない誘惑に会われ、上より与えられた力を通して
勝利された。神性は壮麗さや王権の顕示によって表されることはなかった。こ
のお方は天使の軍勢をご自分の周りに従えて、すべての人がご自分を信じるよ
うに誘導することもおできになった。しかし、これでは神のご目的に合わない
のであった。

キリストは人類の頭として立つために、そして聖霊の力を通して、人がサタ
ンの誘惑に抵抗することは可能であることを示すために来られた。その長い人
性のみ腕で人類をいだき、一方神性のみ腕で無限のお方の御座をつかんでお
られる。……

わたしたちは敵の誘惑に自分自身の力で応じるために努力し、勝利するた

めに最善を尽くすかもしれない。しかし、失望につぐ失望に出会うのである。これこそ、キリストが報われない徒労の夜の後にご覧になった弟子たちの状態であった。彼らは悩み、困惑していた。キリストは彼らに「沖へこぎ出」すようにお命じになり、「網をおろして漁をしてみなさい」と言われた。

漁師たちはその夜長い間労していた。しばしば彼らは期待が裏切られた。繰り返して網を引き上げてみたが空であった。神のご臨在が彼らと共にあったとき、そしてこのお方のご命令でもう一度彼らが網を海に下ろしたとき、なんと豊かに集め入れられたことであろう。彼らはこれほど多く引き上げる用意ができていなかった。……奇跡的な魚の収穫を見たとき、ガリラヤの漁師たちの不信は一掃した。そして彼らはキリストに従い、人間をとる漁師になるために学びなさいとのキリストの招きに応じる用意ができた。……わたしたちが人間の努力でどんなに長く忠実に労したとしても、本当の結果を望むことはできない。しかし、わたしたちが心のうちにキリストを迎え入れたとたん、このお方はわたしたちと共にわたしたちを通して働き、魂の救いへ至るのである。(原稿 67, 1903 年)

8月12日

世は健康の原則を必要としている

「病人に手をおけば、いやされる」(マルコ 16:18)

健康の原則を教える場合は、改革の大目的を念頭に置かなければならないが、その目的とは、肉体と知能と精神を最高度に発達させることである。自然の法則は神の律法であって、わたしたちの益のために制定されたものでありこれに服従することによって、この世の生涯では幸福を増進し、きたるべき生命の準備をする助けとなることを説明なさい。

自然界にあらわれている神の愛と恵みを考えるように人々を指導し、人間のからだという驚嘆すべき有機的組織と、それを支配している法則について研究させなさい。神の愛の証拠に気づき、律法の知恵と恵み、またこれに服従する結果を幾分でも悟った者は、自己の義務と責任に対して今までと全然違った見方をするようになる。言い換えれば、健康の原則の遵守を犠牲や克己のように考えず、無限の祝福—事実その通りなのだが—とみるようになる。

すべて福音宣伝者は、健康的な生活の原則を人々に教えるのが自分に定められた仕事の一部と感じなければならない。この働きは非常に必要であって、世界はそのために開かれている。

団体の働きをもって個人的な働きの代りにしようとする傾向がどこにでも見られる。人間の知恵には、団結し、一つに集結して大きな教会や機関を建設しようとする傾向がある。大勢の人が慈善事業を各種団体、機関に任せ、自分は社会との接触を避けるため、心はだんだんと冷えてくる。そういう人は自己に没頭し、感受性を失い、神と人々に対する愛が絶えてしまう。

キリストは従う者にそれぞれ働きを委任された。それは代理人ではできない働きである。病人や貧しい人々への奉仕、迷った人に福音を伝える仕事は委員会や組織だった慈善事業団体に任せておくべきではない。福音は個人的

手を差し伸べることによってキリストを映す

な責任、個人の努力、その人自身の犠牲を要求する。

「道やかきねのあたりに出て行って、この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにひっぱってきなさい」とは、キリストのご命令である（ルカ 14:23）。キリストは人々を、彼らが助けようとしている者の所へ導いて行かれる。「さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見てこれに着せ」「病人に手をおけば、いやされる」とも言われている（イザヤ書 58:7, マルコ 16:18）。すなわち、直接的接触、個人的奉仕によって福音の祝福は伝えられるべきものである。（ミニストリー・オブ・ヒーリング 118, 119）

8月13日

イエスの尊さをあらわす

「語り合い論じ合っていると、イエスご自身が近づいてきて、彼らと一緒に歩いて行かれた。……彼らは互に言った、『道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか』。」(ルカ 24:15～32)

まだキリストを知らない人びとに、キリストのことについて語るようにしなければならない。わたしたちは、キリストがなさったようにしなければならない。キリストは、会堂であろうと、路傍であろうと、岸から押し出された舟の中であろうと、パリサイ人の宴会であろうと、取税人の食卓であろうと、どんな場所であっても、高尚な生活に関することを人びとに語られた。主の教えの中には自然の事物や日常のできごとなどが織り込まれていた。また、イエスは、病をいやし、悲しんでいる人を慰め、子供たちを腕に抱いて祝福されたりしたので、聴衆の心は、イエスにひきつけられた。イエスが一度、口を開いてお語りになると、人びとは、すいこまれるように聞き入り、その一言一言は、だれかの魂にとって、いのちからいのちにいたらせるかおりであった。

わたしたちも同様にしなければならない。たとどこにしようとも、救い主のことについて、人びとに語る機会をとらえるようにしなければならない。わたしたちも、キリストの模範に従って善を行なうならば、人びとがキリストに心を開いたように、わたしたちにも心を開くのである。無作法な態度で話すのではなくて、神の愛から生じた気転を働かせることによって、「万人にぬきんで」「ことごとく麗しい」救い主のことを彼らに語ることができる(雅歌 5:10, 16)。これこそ、ことばのタラントを最高に用いる方法である。(キリストの実物教訓 313, 314)

人類と利害を一つにされたキリストの模範は、キリストのみことばをのべつ

たえる者やキリストの恵みの福音を受け入れた者のすべてが従わねばならない模範である。われわれは社交的なまじわりをたちきるのではない。他の人たちから孤立してはならない。あらゆる階級の人々に接するためには、われわれは彼らのいるところで彼らに会わねばならない。彼らの方からわれわれを求めてやってくることはめったにない。講壇からだけでは人々の心は天来の真理に動かされない。もう一つの働きの領分がある。それは目立たないかもしれないが、大いに有望である。それは身分のいやしい人々の家庭に、身分の高い人々の邸宅に、もてなしの食卓に、無邪気な親睦の集りの中にみいだされる。……

どこへ行くにも、われわれはイエスをいっしょにおつれし、人々に救い主のとうとさを示すのである。……社交的な関係を通して、キリスト教は世の人々と接触するようになる。天来の光を受けた者はだれでもみな、いのちの光であられるキリストを知らない人々の道を照すのである。……キリストに従う者たちが、人間ではあるけれども神の性質にあずかる者であることを示すとき、キリストはおよこびになる。……彼らは自分たちを照している光を、キリストの愛に輝いている働きを通して、他人に反射する。(各時代の希望上巻 177～179)

8月14日

愛のうちに真理を提示する

「主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神」(出エジプト記 34:6)

主はまもなく来られる。御使たちは神の民が長くなおざりにされてきた働きをなすことができるように四方の風を引きとめている。わたしたちはこの世になしうことに半分も目覚めていない。……

戸別訪問は、魂に届くのに大いに成功をもたらす一つの方法である。しかし、それだけが、神のみ働きを前進させるために備えられた方法なのではない。決定的な真理の宣布がなされなければならない。しかし、この分野の働きをなすことに関して、わたしはわたしたちの民に次のように言うように命じられている。気をつけていなさい。メッセージを伝えるにあたり、他の諸教会に個人的な鋭い批評をしてはならない。……わたしたちは自分の言葉に気をつけよう。わたしたちの牧師たちは、自分自身の衝動にかられて、不法の秘密を非難したり、暴露したりしてはならない。これらの主題に関しては、しばしば沈黙が雄弁である。

多くの人々は欺かれている。真理を愛の口調と言葉で語りなさい。キリストが高められるようにしなさい。真理の肯定的な表現を守りなさい。決してだれかを批判する目的で、神が示されたまっすぐな道を離れてはならない。そのような批判は多くの害をなすが、何の益もない。それは多くの人々の思いの中で確信を消してしまうかもしれない。真理が、誤謬の中にいる人々の矛盾について語るようにしなさい。

人々が自分たちの抱いてきた誤謬に対する真理の優位性を直ちに認めることを期待することはできない。誤謬の惑わしをあらわにする最上の方法は、真

手を差し伸べることによってキリストを映す

理の証拠を提示することである。これは誤謬に対して与え得る最大の譴責である。義の太陽の光線を反射させることによって闇の雲を消散させなさい。

あなたは他の諸教会に語る機会があるかもしれない。これらの機会を生かすために、次の救い主の言葉を覚えていなさい。「へびのように賢く、はとのように素直であれ」。非難の言葉を語ることによって、敵の悪意の行為を引き起こしてはならない。そのとき、あなたは真理が入る戸を閉ざしてしまうことになる。はっきりとした鋭いメッセージを担わなければならない。しかし、敵意を目覚めさせることがないように用心しなさい。あらゆる厳しい表現を抑えなさい。

救われるべき魂が多くいる。言葉と行為において救いにいたる知恵のあるものとなり、あなたと接触するすべての人にキリストを反射しなさい。すべての人があなたの足は平和の福音の備えのくつをはいていることがわかるようにしなさい。もしわたしたちがキリストの霊を吹き込まれて仕事に入ったなら、なんとすばらしい結果を見ることであろう。もしわたしたちが義、憐れみ、そして愛のうちにみ言葉を伝えるならば、助けはわたしたちの必要なときにもたらされる。真理が勝ち、勝利を獲得するのである。(パンフィック・ユニオン・レコーダー 1902 年 10 月 23 日)

8月15日

諸都市で警告を受けるべき 幾千もの人々

「彼らが祈り終えると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出した。」（使徒行伝 4:31）

わたしがあまりにもわずかな働きしかされていない諸都市、すなわち救い主がまもなく来られることについて警告を受けるべき非常に多くの幾千もの人々がいるところのことを考えると、男女が聖霊の力のうちに、滅びつつある魂のためにキリストの愛に満たされて出て行くのを見たいという激しい願望を感じる。

諸都市のわたしたちの戸口にいる異教徒たちが奇妙なほどなおざりにされている。彼らを救うために組織的な努力がなされるべきである。わたしたちは今、わたしたちの戸口の陰に生きている人々……を改心させるために働くべきである。彼らの口に新しい歌が入れられるべきであり、そして彼らが今闇の中にいる他の人々に第三天使のメッセージの光を与えるために出て行くのである。

わたしたちははっきり目覚めて、道が開かれるときに、大きな諸都市で働きを進められるようにする必要がある。わたしたちは諸都市に入り、神のための記念碑を建てるために与えられた光に従うことにおいて大いに遅れをとっている。一步一步魂を真理の満ちみちた光へと導いていかなければならない。多くの人々は霊的な食物を切望している。わたしたちは教会が組織され、慎ましい礼拝の家が建設されるまで働きを続けるべきである。わたしはわたしたちの信仰をもたない多くの人々が自分たちの資金で相当の助けをなすことを大いに確信している。わたしに与えられた光は、多くの場所で、特に大都市で、……そのような人々から助けを受けるということである。……

わたしたちの諸都市で神のために働くことを約束する者は、信仰のうちに

手を差し伸べることによってキリストを映す

て行き、最善を尽くさなければならない。彼らが見張り、働き、祈るとき、神は彼らの嘆願を聞き、答えてくださる。彼らはその後の働きにおいて計り知れないほど貴重な経験を得る。「信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見えていない事実を確認することである」。

わたしの思いは深くかき動かされている。すべての都市になすべき働きがある。働き人たちは、わたしたちの大きな諸都市に入っていかなければならない。

.....

わたしたちは弟子たちがペンテコステの日に感じたように、聖霊の生き生きとした感化力を感じる必要がある。当時の彼らの経験について、わたしたちは次のようにあるのを読む。「彼らが祈り終わると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出した。信じた者の群れは、心を一つにし思いを一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものだと主張する者がなく」。利己心は心から一掃されていた。「使徒たちは主イエスの復活について、非常に力強くあかしをした。そして大きなめぐみが、彼ら一同に注がれた」。(パシフィック・ユニオン・レビュー 1902 年 10 月 23 日)

8月16日

畑は収穫の用意ができています

「あなたがたは、刈入れ時が来るまでには、まだ四か月あると、言っているではないか。しかし、わたしはあなたがたに言う。目をあげて畑を見なさい。はや色づいて刈入れを待っている。」(ヨハネ 4:35)

神のしもべたちは、特別に全存在がすっかり墮落してしまうまで一生をサタンの奉仕に捧げてきた人々のために働くことによって自分の時間と力を使い果たしてはならない。見放された者がやってくる時、一彼らは、キリストの許へ来たように必ず来るのであるが一、わたしたちは彼らを禁じてはならない。わたしたちは彼らに助けの手を伸べなければならない。しかし、神は働き人たちが、もっと高い階級の人々、すなわちもし改心すれば今度は自分たちと同じ地位にある人々のために働くことのできる人々に手を差し伸べるよう求めておられる。このお方は、ご自分の奉仕に動員された牧会の中に改心したタラントと改心した感化力を見たいと願っておられる。主はタラントと感化力のある男女に働きかけ、彼らを憐れみの最後のメッセージを世に与える人々と結びつくように導いておられる。

若い男女を大都市のスラム街で働かせることによって間違いを犯してきた。この働きの結果から救われる者はほとんどいない。……主はわたしに、わたしたちの働きは、消費者と同様に生産者となる者を真理に導き入れることであることを示された。自分たちがまだ受けていない何ものかを切望しているタラントと感化力の人々がいる。真理がその単純さのうちに彼らに提示されるようにしなさい。もし改心すれば、彼らは真理のために強力な感化力を働かせるようになる。

神はご自分の奉仕に召しいれる人々、過去になされたような命のないやり方で働きを進めたりしない人々を持っておられる。まだ世に与えられるべきメ

手を差し伸べることによってキリストを映す

メッセージを聞いたことがない多くの人々は、自己否定と自己犠牲の意味を学んできた。真剣さと熱心さ、気転と理解をもって働く人々が真理へ導きいれられるであろう。これらの熱心な働き人たちをだれも失望させてはならない。彼らは何か間違いを犯し、正され、教えられる必要があるであろう。しかし、真理にもっと長くいる人々も間違いを犯し、矯正と指導を必要とはしなかったであろうか。彼らが間違いを犯したとき、主は彼らを捨て去らず、高く掲げるためにご自分の旗印を彼らに提示して、彼らを癒し、強められたのであった。

神はご自分の使命者を選び、彼らにご自分のメッセージをお与えになる。そしてこのお方は、「彼らをそのままにしておきなさい」と言われる。新しい方法が取り入れられなければならない。神の民は自分たちの生きている時の必要に目覚めなければならない。

〔キリストは〕聖霊が弟子たちの上に注がれるとき、ご自分がまかれた種の収穫がなされることをご存知であった。幾千もの人々がその日に改心するのであった。……

時は過ぎつつある。そして主はご自分の働きのあらゆる分野の働き人たちが自分の目を上げ、収穫のためにすっかり実っている畑を見るようにと求めておられる。(パシフィック・ユニオン・レコーダー 1902 年 10 月 23 日)

8月17日

失われた者たちに警告することにおいて 神のみ旨をなす

「キリストの僕として心から神の御旨を行い、人にではなく主に仕えるように、快く仕えなさい。」(エペソ 6:6, 7)

昨夜、わたしの前に光景が示された。わたしはそれを全部明らかにするつもりは毛頭ないが、少し述べようと思う。

巨大な火の玉が世に下り、大きな家々を粉碎したように見えた。あちこちから「主が来られた!主が来られた!」という叫びが起こった。多くの人々はここにお方にお会いする準備ができていなかった。しかし、わずかな人々は「主を賛美せよ!」と言っていた。

「あなたはなぜ主を賛美しているのですか」と、突然破滅が臨んだ人々は尋ねていた。

「なぜなら、わたしたちが長く待ち望んだことを今見ているからです」。

「もしあなたがこれらのことが訪れると信じていたなら、なぜわたしたちに教えてくれなかったのですか。」というのが恐ろしい答えであった。「わたしたちはこれらのことについて知りませんでした。なぜあなたはわたしたちが知らないままにしておいたのですか。何度もあなたはわたしたちを見ていました。なぜあなたはわたしたちと知り合いになり、来るべき裁きのことを知らせ、わたしたちが滅びることがないように、神に仕えなければならないことを教えてくれなかったのですか。今、わたしたちは失われています」。

すべての教会員は知性を訓練し、自分に関する神のみ旨を明確に理解しなければならない。すべての人は声を訓練し、聖書の知識を知らない人々に伝えられるようにしなければならない。神がわたしたちを助け、ダニエルのように、残されている恩恵期間の終わりに自分の分と場所に立つことができるように。

手を差し伸べることによってキリストを映す

ご両親がた、あなたの子どもたちに地上に訪れようとしている事柄に関して教え、彼らが平安のうちに自分たちの主にお会いする準備をするよう導きなさい。聖書の知識を得なさい。頭をくだらない小説でいっぱいにしてはならない。真理をはっきりと理解し、他の人々にそれを知的に教えることができるようになりたいと願う人々に脳神経の力が、要求されている。わたしたちには脳の力がありすぎるということはない。決してタバコやアルコール飲料や他の有害な物質を使用する余裕はない。なぜなら、わたしたちは魂の救いの働きのために自分たちの思いをはっきりと保つために奮闘しなければならないからである。主はご自分の奉仕に熱烈な真剣さを表す人々をお喜びになる。すべての人にとって神が与えてくださったすべての力を忠実に培うことが特権である。

その喜ばしい日に……贖われた人々は叫ぶ、「ほふられ、再び生きられた小羊、輝かしい勝利者こそは、さんびを受けるにふさわしい」。働き人はそのとき、なんという喜びを感じて、自分たちが震えつつ、恐れをもって語った人々のところへ行くことであろう。聖書を開いてみせ、共に祈り、こうしてその魂の秤を正しい側に傾けた人たち……そのとき、このお方のみ摂理はすべて明らかにされる。(原稿 102, 1904 年)

8月18日

心からの伝道者が必要とされている

「彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。」(コリント第二 5:15)

自分に定められた働きをする者は他人に祝福となるばかりでなく、自らも祝福を受ける。義務を立派に果たしたという意識は自分の心に反映し、失望していた者は失望を忘れ、弱かった者は強くなり、無知な者は賢くなり、すべての人が、自分を召されたキリストは、確かな助け手であることを悟るであろう。

キリストの教会は人に尽すための組織であって、その標語は奉仕である。教会員は救いの将の下で戦うために訓練される兵士である。クリスチャンの伝道者、医者、教師には多くの者が認識している以上に広い働きがある。彼らは人々に奉仕するばかりでなく、その人々に奉仕することを教えなければならない。また正しい原則を教えるだけでなく、これらの原則を他人に分け与えることができるように聴衆を教育すべきである。実践を伴わぬ真理や人にわけ与えない真理はその生命力を失い、いやす力を失ってしまう。真理の祝福は他人にわけ与えて初めて持続することができるのである。

神に対する奉仕の単調さを打ち破らなければならない。各教会員は主のために何かの方面に従うべきである。ある者は他人ほどできないにしても、世界に広がっている病気や苦難の流れを押し返すために、自己の最善を尽さなければならない。……

神に献身している教育のある働き人は、教育のない働き人よりも多くの方面に奉仕し、さらに大きな仕事ができる。精神が訓練されていることがその人を有利な立場におくのである。しかし、大した才能もなく、広く教育を受けていない人であっても、他の人のために奉仕することができる。神は用いられるこ

手を差し伸べることによってキリストを映す

とを喜ぶ人をお用いになるのである。最大で永続的な結果をきたす働きをするのは、必ずしも最も才気あふれた才能家ではない。天のメッセージを聞いた男女が必要とされているのであって、一番効果的な働き人は「わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい」との召しに応ずる者である (マタイ 11:29)。

必要なのは心からの伝道者である。心に神の感動を受けた人は、神の愛をまだ知らずにいる人に対する熱望で心が満ちている。そして、その状態が自分の苦悩のように深く感じられる。その人は天よりつかわされ、神の靈感を受けた使者として天使が協力できる働きに命がけで出て行く。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 120 ～ 122)

8月19日

戸別訪問の働きを通じての成功

「あなたがたの益になることは、公衆の前でも、また家々でも、すべてあま
すところなく話して聞かせ、また教え、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対す
る悔改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、強く勧めてきたのである。」
(使徒行伝 20:20, 21)

働きは……小さく始めなければならなかった。しかし、……それは自立す
るように運営することができる。それを成し遂げる一つの偉大な方法は、す
でに真理のうちにいる人々が、働きに力となり支えとなる他の人々を導き入れ
るためのよく指導された努力による。これはキリスト教会が設立された方法で
あった。キリストはまず数人を選び、彼らにご自分に従うようにお命じになった。
それから、彼らは自分の親戚や知り合いを捜しに行き、彼らをキリストの許へ
連れて行った。わたしたちもこの方法で働くべきである。数人が探し出され、
完全に真理の側に立つと、最初の弟子たちのように、他の人々のための働き人
となる。……今や重荷は真理を魂に得心させることである。これを成し遂げる
最善の方法は、個人的な努力、すなわち真理を彼らの家へ持ち込み、彼らと
共に祈り、彼らに聖書を開いて見せることである。(ビュー・アンド・ヘルド 1885
年 12月8日)

わたしたちの救い主は、家から家へ行き、病人を癒し、嘆いている者を慰め、
苦しんでいる者をやわらげ、絶望している者に平安を語られた。このお方は
幼子をご自分の腕にとり、彼らを祝福して、希望と慰めの言葉を疲れている母
親に語られた。変わることはない優しさと親切をもって、このお方はあらゆる
かたちの人間の悲哀や苦悩に応じられた。

このお方はご自身のためではなく、他の人々のために労された。このお方は
すべての人のしもべであられた。ご自分が接触するすべての人に希望と力をも

手を差し伸べることによってキリストを映す

たらすことが、このお方の食べ物であり飲み物であつた。そして男女がこのお方の唇からこぼれる真理に耳を傾けるとき、……彼らの心のうちに希望がわきおこつた。その教えには、説得力をもってこのお方の言葉を心に届かせる真剣さがあつた。(福音宣伝者 188)

パウロは公に労したのと同様に、神に対する悔改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰を説くために家々を回つた。彼は人々とその家で会い、涙をもって彼らに嘆願し、神の勧告全体を宣言した。イエスは人と個人的に交わられた。このお方はご自分の助けを必要としている人々から超然と離れておられることはなかつた。……わたしたちは、わたしたちの助けを必要としている人々の心に近づかなければならない。理解する者に聖書を開き、神の律法のご要求を提示し、ためらう者に約束を読んで聞かせ、背信者に訴え、不注意な者を呼び覚まし、弱っている者を強めなければならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888 年 4 月 24 日)

あなたの隣人に語ることや、自分のできる親切の限りを尽くすことを怠ってはならない。……わたしたちは使徒パウロを動かして、家から家へ尋ねさせ、涙をもって嘆願し、「神に対する悔改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰」を教えるようにさせた霊を求める必要がある。(同上 1888 年 3 月 13 日)

8月20日

同情の行為は扉を開く

「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」(マタイ 20:28)

多くの人は神への信仰がなく、人への信頼を失っている。しかし、彼らは同情や助けの行為を感謝する。彼らが地上の賞賛や代償に誘われることなく、だれかが自分たちの家に来て、病人を助け、飢えている者に食べさせ、裸の者に着せ、悲しむ者を慰め、いつでもすべての人に愛と憐れみのお方を指し示して、人間の働き人は使者に過ぎないことを告げるのを見るとき、こうしたことを彼らが見るとき、それは彼らの心の琴線に触れる。感謝がわきおこる。信仰がともされる。彼らは神が自分たちを心にかけてくださることを見て、このお方のみ言葉の教えに耳を傾ける準備ができる。

外国の伝道者でも国内の伝道者でも、すべての人は、男女共に、もし病人に奉仕することができれば、はるかにもっと人々に近づく用意ができ、大いに有用性が増すことがわかる。異教の地へ伝道者として行く女性は、他のすべての接近手段の戸は閉ざされているときに、その地の女性に福音を伝える機会を見出すようになる。すべての福音の働き人は、痛みをやわらげ、病気を取り除くのに大いに役立つ単純な治療をどのように施すか知っているべきである。

福音の働き人はまた健康的な生き方の原則において指導できるべきである。至るところに病気があり、それらの多くは健康の法則に注意を払うことによって防ぐことができる。人々は健康の原則が自分たちの幸福に、この世の生涯においても来るべき生涯においても関係があることを知る必要がある。彼らは自分たちの創造主がご自分の住まわれる場所として整えられた人間という住まい、また彼らがそれを管理する忠実な管理者となることを望んでおられる

手を差し伸べることによってキリストを映す

人間という住まいに対して責任があることに目覚める必要がある。

幾千もの人々が、単純な病人の治療法—有毒な薬の使用に変わる方法—に関する指示を必要としているし、喜んで受けるであろう。食事の改革に関する指導が大いに必要とされている。食事の悪習慣と不健康な食物は、世ののろいとなっている不節制や犯罪や悪に少なからず責任がある。

健康の原則を教える際に、人々の思いに改革の大きな目的を保ち続けていなさい。すなわち、その目的は体と思いと魂の最高の発達を確保することである。自然の法則は、神の法則であること、そしてわたしたちの益のために意図されていることを示しなさい。それらに従順であることがこの世における幸福を促進し、来るべき生涯のための準備を助けることを示しなさい。(ビュー・アソ
・ヘルド 1914 年 12 月 24 日)

8月21日

青年をあなたがたの家庭に招きなさい

「すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』」(マタイ 25:40)

わたしたちは罪と誘惑の世におり、青年たちはわたしたちの周囲のいたるところでキリストなしに滅びつつある。そしてこのお方はあなたがたができる限りの方法で青年たちのために労することを望んでおられる。もしあなたに家、快適な家庭があるなら、家庭のない青年たちを招きなさい。助けを必要とし、同情や親切な言葉、礼儀、尊敬を必要としている青年を招きなさい。彼らはみなこれを必要としている。もしあなたが彼らをキリストの許へ連れて行きたければ、キリストの血で買われた人々、このお方がご自分の尊い命という無限の代価で贖われた魂へのあなたの愛と尊敬を示さなければならない。そしてわたしたちがぶどうの木につながる枝となるや否や、それは実を結ぶよう導くのに十分ではないだろうか。……

自分たちが助けたこれらの青年たち、わたしたちが家に招いた青年たち、誘惑から導き返した青年たち、酔っ払いや喫煙者や飲酒家になることから引き離し、またこうした頭脳を曇らせ、理性を取り除き、人を健全な思いと健全な体なく放置する家から支えを取り除くような習慣から引き離して勝ち取ろうと努めた青年たちに、わたしたちは天で会うことになる。……わたしたちは何を望むであろうか。神の栄光の日光を反射する顔、わたしたちは神に似た姿を反射することを望むのである。わたしたちは新たに形成された品性を望む。キリストのみすがたがわたしたちに回復されるべきである。神がわたしたちを助けて下さって……生涯わたしたちが最善を尽くせるように。

あなたには、劇場やダンスホールに費やす時間はない。不平を言っている

時間はない。それは損失、損失である。あなたにはカード遊びをする時間はない。競馬に行っている時間はない。ショーに行く時間はない。わたしの魂はどうであろうか。……わたしは神との生きたつながりを持っているであろうか。もし、持っているならば、わたしたちはこうした外面の娯楽に引かれているこれらの魂を勝ち取るように努めなければならない。サタンはそれを成し遂げてきた。サタンは一つの娯楽が、他の熱狂的な興奮に続いて押し寄せるように仕組んできた。神のことを考える時間もなく、天や天の事柄を考える時間もなく、聖書を学ぶ時間もなく、キリストもない人々のために関心を持った努力を払う時間もない。

しかし、イエスに献身する……人々は……祝福を宣言する声を聞くことができる。「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」。そこで、それが選択であることがわかるであろう。……それは神に従順でキリストの分野で働くすべての人々に準備されている。なぜなら、彼らは天の報いという宝を得たとき、自分たちの主の喜びに入るからである。彼らの喜びが、救い主に魂を勝ち取るというキリストの喜びで満ちているからである。(原稿 43, 1894 年)

8月22日

青年を助けるべき青年

「こういうわけで、平和に役立つことや、互の徳を高めることを、追い求めようではないか。」（ローマ 14:19）

わたしは生徒たちに真剣にみ言葉の指示を繰り返し呼びかけて語り、もし彼らが忠実であればまもなく移されようとしている高等学校を常に念頭に置くよう命じた。……

わたしはこれらの生徒たちが最善を尽くし、自分自身の道にも他の人々の道にもつまずきの石を置くことがないようにと願う。しかし、個々に彼らはクリスチャンになろうと奮闘し、勤勉な研究と熱心な祈りによって神のみ事業に受け入れられる奉仕をなすために不可欠な訓練を得なければならない。

わたしは青年たちが互いにより高いクリスチャン経験へと助けるのをみたいと切望している。わたしたちはすべての人の判決が永遠に決定する日の大いなる審査のために準備している。この厳粛な出来事を考慮するとき、青年だけでなく、永遠の命のために奮闘するすべての人々は心と意思のすべての力を尽くしてキリストの方法を学ぶ働きに集中する必要がある。わたしたちには直面しなければならない厳しい戦いがあり、得なければならない重要な勝利がある。……

主の前にあなたの心をへりくだらせなさい。心と意思を純潔に清く保ち、世的なもつれから離れていなさい。聖化された命のすべての力は神の奉仕へつぎ込まれるのである。

「ある戦いで、攻撃軍の連帯の一つが敵に撃ちかえされたとき、前線の旗手は軍隊が退却するときに自分の持ち場に立っていた。大尉は彼に旗を持って戻ってくるようにと叫んだ。しかし、旗手の返答は次であった、『人々を旗印のところへ戻しなさい。』」これがわたしたちの表すべき精神である。人々を旗

手を差し伸べることによってキリストを映す

印の下へ帰すことは、すべての忠実な旗手に委ねられている。主は真心を求めておられる。クリスチャンだと公言する多くの人々は、自分と自分につながっている人々を真の旗印に連れ戻す勇気と精力に欠けている。旗手たちは、勇敢で真実な人として、戦場におられるわたしたちの救いの将キリストを覚えながら人々を旗印の下へ導き上らないのであろうか。

すべての世紀にわたりマケドニヤの叫びが響いている、渡ってきて、わたしたちを助けて下さい。神はわたしたちの前に畑を開いておられる。もし人間の器が神聖な代理人と協力するならば、多くの魂が真理に勝ち取られるのである。主の御霊は恵み深くあらわされるのである。……

すべての聖化された心は今、命を与えるメッセージを宣布することを求めることによって答えようではないか。……もし謙遜と忠実さのうちに男女が神に任命された自分の働きに取りかかるならば、神聖な力は真理への魂の改心のうちに表される。彼らの努力の結果は素晴らしいのである。(手紙 44, 1911 年)

8月23日

感化力

「また、足のなえている者が踏みはずすことなく、むしろいやされるように、あなたがたの足のために、まっすぐな道をつくりなさい。」(ヘブル 12:13)

わたしたちは自分と交わる人々に対して、自分たちの感化力が善であれ悪であれ、いかに力強いかわかりえない。……

わが親愛なる若い友人がた、あなたは真の信心の単純さを維持することができる。あなたは主を知ることを切に求めることができる。このお方は朝日のごとく現れる。あなたはこのお方が自分の助け手であられることを知ることができる。あなたが自分の魂の守りを天の権威者たちにお委ねするとき、イエス・キリストにある光と喜びと希望と慰めをますます得て、世の墮落した感化力から引き離されるのである。

自分たちの足のためにまっすぐな道を作ること—これがわたしたちの働きである。「わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで、信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つめ、走ろうではないか」。このお方はわたしたちが細い道を進み、永遠の命へ続く狭い門を通るとき、日々わたしたちと共にいて下さる。このお方はあなたの助け手であり、あなたの力であられる。このお方をもっと賛美しようではないか。わたしたちはみな、このお方を賛美すべき非常に多くのものを受けてきた。であれば、このお方のことを多く語り、このお方を愛そうではないか。

ここにもっと若い子供たちがいる。キリストはあなたを愛しておられる。母親が幼い子供たちを、キリストに手を置いて祝福していただく連れしてきたとき、弟子たちは彼らを追い返そうとした。主人には人々に与えるべき重要な教訓があるから、じゃまされてはいけないと考えた。イエスは彼らの言葉をお聞きになって言われた、「幼な子らをそのままにしておきなさい。……天国はこ

のような者の国である」。

わたしはこれらの幼子たち一人びとりに深い関心を覚える。そしてあなたがたが彼らを非常に優しく扱うようにと望む。家庭において年長の者は自分より幼い兄弟姉妹に対して忍耐強く親切であるようにしなさい。彼らは小さいものたちを聖書の真理において教育するのを助けることができる。彼らに語るとき自分たちの声に力を入れてはならない。正しいことをなし、主を喜ばせることからくる祝福を入れなさい。……

もしあなたがたが主の助けを絶えず求めるなら、あなたがたは夕べの祈りの時に、日中の厳しく気落ちさせるような自分の言葉や不親切な行為を、悔い改めなければならないと感じることがなくなる。生きた信仰によってキリストの右手をしっかりとつかみ、それから年下の子供たちを励ましなさい。彼らはときどき間違いを犯したり、いたづらをしたりするかもしれないが、失望してはならない。彼らをできる限り誘惑から守り、主に従うように励ましなさい。……

家庭において教会において、わたしたちが勇気を持ち、天へ向かって一歩一歩前へ上へと進んでいけるように主に嘆願しよう。(原稿 61, 1907 年)

8月24日

助けを必要としている人々に近づきなさい

「人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」。(ルカ 19:10)

全天はイエスの許へ来るすべての悔い改めた魂に深い関心を持っている。そして彼らはまた悔い改めない人々、すなわち彼らが悔い改めと改革によって救われるのをみたいと願っている人々にも関心を持っている。御使たちはわたしたちのすべての行動を見ている。彼らはわたしたちの口にしたすべての言葉をよく知っている。彼らはわたしたちが何ものよりも神のみ言葉の指示に価値を置くのを見たいと望んでいる。彼らはわたしたちがキリストの柔和と低さ—すべての科学にまさる最高のもの、キリスト・イエスを通しての喜びと謙遜と愛の科学—を学ぶことを望んでいる。

御使たちはわたしたちが、人の子は「失われたものを救うために」来られたのだということを学ぶよう望んでいる。キリストは善良な義なる人々を救うために来られたのではなく、「失われたもの」を救うために来られたのである。兄弟姉妹がた、一人の魂が真理の側からすべり出て、永遠の救いの希望を危険にさらしているのを見るとき、彼のかたわらに近づき、できる限りの方法で彼を助けるように努めなさい。彼の必要を調べなさい。彼と共に祈りなさい。親切に、忍耐強く、彼と共に働きなさい。決して彼を助けることに絶望してはならない。

教会員には青年たちに関心をもってなすべき働きがある。彼らは青年たちと握手し、彼らの幸福に親切な関心を表すべきである。できる限り青年たちを世の誘惑や魅惑からかくまおうではないか。もし可能であれば、彼らのために思いを高尚にするもので満たすような仕事を見つけてあげよう。これこそ、本物の伝道であり、神が是認して下さる伝道であり、仕える者の前にも仕えら

手を差し伸べることによってキリストを映す

れる者の前にも同様に敵に対する旗印を掲げる伝道である。サタンは言葉と行いにおいて義に仕える者を自分の策略で打ち負かすことはできない。……

同胞仲間が自分の足をちとせの岩の上に置くのを助けることは、すべての人に与えられている特権である。……

キリストはわたしたちが囲いから迷い出たとき、わたしたちを探し求めることを決しておやめにならない。倦むことを知らない歩みでわたしたちを見つけるまで探し、ご自分の囲いに連れ帰って下さる。わたしたちはこのお方の愛の保護がなかったら、何度も滅びていたはずである。……わたしたちはこの世で今働いている勢力の強さをほとんど知らない。全天は失われた者を救おうとしている。墮落した天使たちはキリストとその共労者たちの努力を無効にするために下からの力をもって働いている。……

わたしたちが信仰の良き戦いを戦い、立ち得るためすべてを成し終えて全身を武具でまとうために、神がわたしたちを助けて下さるように。……会計報告をださなければならない者として魂を見守ろうではないか。(原稿 102, 1904 年)

8月25日

神は青年を召しておられる

「神よ、あなたはわたしを若い時から教えられました。わたしはなお、あなたのくすしきみわざを宣べ伝えます。」(詩篇 71:17)

主人のぶどう畑にはなされるべき大いなる働きがある。この働きを成し遂げるために、神は奉仕のための能力を授けてこられた人々を召しておられる。このお方は人間の協力なしに何もなされない。

主はなされるべき働きを持っておられるときはいつでも、指示する役員だけでなく、すべての働き人を召しておられる。このお方は思いにおいて強く活発な青年男女を召しておられる。このお方は彼らが自分たちの新鮮で健全な脳と骨と筋肉を働きに持ち込むよう願っておられる。彼らはもろもろの支配と、権威と、また天上にいる悪の霊に対する戦いに参加しなければならない。

人は神が信任のうちに与えて下さったもの以外は何も持っていない。彼らは誇りや自分のタラントの自慢にふけてはならない。彼らは神に奉仕できるようにして下さったすべてのものをこのお方に負っているのである。しかしなお、すべての人は自らを奉仕に備えさせるために役割を持っている。熱心な研究、苦勞の多い努力によって、彼は自分の能力を培うべきである。そのとき、神聖な力はたしかに彼の努力と結合するのである。

ある青年たちは本当の適性がないのに、働きへ入るよう進路をせきたてられる。彼らは自分たちが教えることができる前に教えられる必要があることを理解しない。彼らはほとんど準備のできなかつた人々が働いて大いに成功したことを指摘する。しかし、もしこれらの人々が成功したとしたら、それは彼らの心と魂を働きに注ぎ込んだからである。……神のみ事業は有能な人々を必要としている。……

贖い、それは何であろうか。それは天のための訓練の工程である。この訓

手を差し伸べることによってキリストを映す

練は書物の知識以上のことを意味している。それはキリストの知識、すなわち暗黒の君の学校で得た考え、習慣、行為からの解放を意味している。魂は神への忠誠に反対するすべてのものから救出されなければならない。悪への抵抗が奨励されなければならない。……

神はすべての人にこの世の生涯において品性を発達させる機会を与えておられる。すべての人はこのお方の偉大な計画において自分に定められた場所を占めることができる。主はサムエルをごく幼少時からお受入れになったが、それは彼の心が純潔で、神への敬神の念を持っていたからである。彼は神に捧げられ、献身した捧げ物であった。そして主は、彼をその幼少の時ににおいてさえ、光の通路とされた。

サムエルの生涯のように献身した生涯は、神の御目に大きな価値がある。もし今日の青年がサムエルのように自らをお捧げするなら、主は彼らを受け入れ、ご自分のみ働きにおいて彼らをお用いになる。彼らは自分の命について詩編記者と共に「神よ、あなたはわたしを若い時から教えられました。わたしはなお、あなたのくすしきみわざを宣べ伝えます」と言うことができる。(原稿 51, 1900 年)

8月26日

「清い宗教」と「わたしの隣人」が 明確にされた

「父なる神のみまに清く汚れのない信心（宗教）とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにほかならない。」
(ヤコブ 1:27)

何が清い宗教であろうか。キリストはわたしたちに清い宗教とは、家庭において、教会において、そして世において、憐れみと同情と愛を働かせることであるとお教えになった。これこそ、子供たちに教えるべき種類の宗教である。彼らに考えを自分自身のことに集中させてはならないこと、かえって人の必要と苦しみがあるところはどこでも、伝道の働きのための畑であることを教えなさい。……

多くの人々が役人のように「わたしの隣人とはだれのことですか」と尋ねる。答えはエリコの近くで起こった状況の中でわたしたちにまで及んでいる。そのとき、祭司とレビ人は哀れな傷つき怪我をしていた見知らぬ人のそばを通り過ぎて、良きサマリヤ人が世話をするのに任せたのであった。苦しんでいる人はすべてわたしたちの隣人である。さ迷っているアダムのすべての息子むすめ、すなわち魂の敵によってわなにかけられ、神が与えて下さった人格を傷つける悪習慣の奴隷のくびきにつながれている人は、わたしの隣人である。……

子供たちに赤ん坊のころから幼年期や青年期を通じて、自分たちのすぐまわりになすべき伝道の働きがあることを理解するよう教育しなさい。家庭を宗教の教えのための場所としなさい。両親はイスラエルの主なる神の代弁者となって真のキリスト教の規則を教え、彼らに愛の原則が男女をどのようにすることができるといふ模範となりなさい。

わたしたちは自分たちの愛や優しさや世話を必要としているほかの人々のこ

手を差し伸べることによってキリストを映す

とを思いやり、心にかけるべきである。わたしたちは自分たちがキリストの代表者であること、またこのお方が与えて下さった祝福を、わたしたちに返礼できる人々にではなく、自分たちの現世と霊的な必要を満たしてくれる賜物を感謝する人々に分かすべきことを、いつも覚えているべきである。

ほとんど楽しみのない人々を助ける目的で、陰鬱な生活に明るさをもたらす目的で、貧困と苦悩を和らげる目的で宴を催す人は、私心なくキリストの教えに調和して行動しているのである。(ビュー・アンド・ヘルド 1895 年 11 月 12 日)

善行、すなわち、親切な言葉、慈善の行為、貧しい人々や困窮している人々、苦しんでいる人々への優しい関心は、キリストがわたしたちに結ぶように要求しておられる実である。心が失望と悲しみで重くなっている心に心が同情するとき、手が困窮している人々に施すとき、裸の者が着せられるとき、見知らぬ人があなたの居間の座やあなたの心の場所に歓迎されるとき、天使たちは非常に近く来ており、天では応答の旋律が鳴るのである。(教会への証 2 巻 25)

8月27日

文書伝道を通して手を差し伸べる

「わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。」(ルカ 22:27)

わたしたちの出版物を売る文書伝道は、重要かつもっとも実りの多い伝道分野の働きである。わたしたちの出版物は、集会を催すことのできない場所へ行くことができる。そのような場所では、忠実な文書伝道者が、生ける説教者に代わるのである。……

主が文書伝道者として文書伝道分野に入るよう、多くの若い青年男女に働きかけて下さるように。文書伝道の働きによって、それがなければ真理を聞くことのなかった何千もの人々に真理を提示することができる。わたしたちの働きのための時間は短い。多くの人々、非常に多くの人々は、彼らのうちに「すばやく」という迅速さ、すなわち彼らを目覚めてさせて働きに出て行かせる迅速さが必要である。主はまさに今働き人を召しておられる。……

なぜ今、何百もの人々が聖霊に満たされ、速やかに真理を、すなわち「主は彼らと共に働いておられ、打ち続くしによってみ言葉を確認しておられる」ことを宣布しに出て行けるよう、もっと勤勉に主を探し求めないのであるうか。わたしたちの任務は出版物から至る所に光が輝き出るようにすることである。印刷されたページによって、遠隔地にいる人々や、生ける説教者の言葉を聞く機会のない人々にも光が届く。これは最も祝福された伝道の働きである。文書伝道者は真理が入るように扉を開き、主の助け手となることができる。

現代の真理を含んだ書物を扱うためにクリスチャン青年を選出するようにしなさい。……これは聖なる働きであり、その働きに入る人々はキリストのための証を担うことができる。

この働きに入るこれらの青年たちは経験において彼らよりも年配の人々と結

手を差し伸べることによってキリストを映す

びつくべきである。彼らはもし神に献身しているならば、彼らに神の事柄について教え、どのようにしてこのお方のために最善の働きができるかを示すことによって、青年たちにとって大いに祝福となることができる。もし青年たちが恐れおののいて自分自身の救いの達成に努めるならば、彼らは経験によって神が自分たちと共に働いて下さり、その願いを起こさせ、かつこのお方のみ旨の良しとされるところを成し遂げて下さることを知るのである。

男性だけでなく女性も文書伝道の分野に入ることができる。そして文書伝道者は二人ずつ出て行くべきである。これが主のご計画である。

わたしは伝道の働きをし、聖書の教えを与え、現代の真理を記した書物を売る助け手を確保するための断固とした努力を促進すべきことを指示された。このようにして魂を探すことにおいて巧みな働きをなすことができる。青年がたよ、あなたの助けが求められている。犠牲によって神と契約を結びなさい。このお方のみ働きに携わりなさい。このお方があなたの充足であられる。「強くあれ、しかり、強くあれ」。(パシフィック・ユニオン・レコーダー-1902年10月23日)

8月28日

身体的な必要の救済

「暗黒の中に住んでいる民は大いなる光を見、死の地、死の陰に住んでいる人々に、光がのぼった」(マタイ 4:16)

死の陰にいて、福音の真理について教えらるる必要のある人々が多くある。ほとんど全世界が病のうちに伏している。闇の中に座している人々のための希望の言葉が、キリストを信じるすべての信徒に与えられている。……

熱心で献身した青年たちが看護師の働きに入るために必要とされている。……主は賢明な男女、すなわち看護師の能力をもって行動でき、病気で苦しんでいる人々を慰め助ける男女を求めておられる。ああ、すべての苦しんでいる人々が、弱り痛みに疲れ果てている自分の体を大いなる癒し主の保護にあずけ、信仰のうちに回復を望んでこのお方を眺めるのを助けるクリスチャンの医師や看護師の奉仕を受けられれば良いのだが。もし思慮深い奉仕を通して、患者が自分の魂をキリストに捧げ、自分の思いを神のみ旨への従順に入れるように導かれるなら、大きな勝利を得るのである。

日々の奉仕の中で、わたしたちは数多くの心配ごとにやつれた悲しい顔に出会う。彼らの顔にあらわれた悲しみは何を示しているであろうか。それはキリストの平安を求める魂の必要を示している。男も女も自分たちが持っていない何かを求めており、自分たちの欠乏を地上の壊れた水瓶で満たそうとしてきた。これらの人々が「おお、渴いている者はみな、水のもとへ来るがよい」との声を聞くことができるようにしなさい。疲れた魂よ、あなたは何を求めているかを知らないが、命の水のもとへ来なさい。全天はあなたを切望している。「命を得ることができるように、わたしのもとに来なさい」。

伝道者である看護師が進めるべき働きの分野が多くある。よく訓練された看護師には家庭に入っていき、そこで真理への関心を引き起こすために努め

手を差し伸べることによってキリストを映す

る機会がある。ほとんどすべての地域社会で神のみ言葉の教えを聞こうとしない人やどんな宗教的礼拝にも出席しようとしらない人々が数多くいる。もし福音がこれらの人々に届けられるとすれば、それは彼らの家庭に伝えられなければならない。しばしば彼らの身体的な必要を救済することが、彼らに近づくことのできる唯一の道である。

病人の世話をし、貧しい人の貧苦を救済する伝道者である看護師は、彼らと共に祈り、彼らに神のみ言葉を読んで聞かせ、救い主について語る多くの機会を見出すようになる。情欲が墮落させてきた食欲を制する意志の強さを持っていない無力な人々と共に、またそのために祈ることができる。彼らは打ち負かされ、落胆している人々の生涯に希望の光線をもたらすことができる。自分の利益を考えない親切な行為に表される無我の愛のあらわれは、これらの苦しむ人々がキリストの愛を信じることをもって容易にする。(ビュー・アンド・ヘルド 1914 年 12 月 24 日)

8月29日

音楽伝道

「わたしの舌は……あなたの義を歌うでしょう。」(詩篇 51:14)

歌うことにおける指導は、どの学校でも大いに必要とされている。はるかにもっと関心が払われるべきである。……旋律豊かに歌詞がよく理解できるような方法で福音の美しい歌をうたうことを学んできた生徒たちは、讚美伝道者として多くの善をなすことができる。彼らは神が自分たちにお与えになったタラントを用い、福音伝道についてほとんど聞く特権のない人々に歌って聞かせることによって、罪と悲しみと苦悩で暗くなった多くの孤独な場所に旋律と日光を携えて入っていく多くの機会を見出すようになる。

大路や垣根に出て行きなさい。低い階級の人々と同じように高い階級の人々にも手を差し伸べるよう努めなさい。金持ちの家にも、貧しい人の家にも入っていきなさい。あなたが歌うために個別に訪問するとき、「歌ってもよろしいですか。ご一緒に讚美礼拝をして、わたしたちを守って下さるように神様に一言お祈りをお捧げできれば幸いです」と尋ねなさい。あなたがたが入るのを拒む人は多くないであろう。(原稿 67, 1903 年)

預言者の学校では、献身の精神をいだいていた。学生は、……祈る方法と創造主に近づく方法、神に対する信仰の働かせ方、そして、聖霊の教えるを理解して服従する方法などを教えられた。彼らは、清められた知性によって、神の蔵から新しいものや古いものを取り出した。そして、神の霊は、預言と聖歌の中に表わされた。

音楽は聖なる目的のために用いられ、清く、気高く、高尚なことに人の思想を高め、魂のうちに、神への献身と感謝の念を起こさせた。こうした古代の習慣と、現在音楽がしばしば用いられている方法との間には、なんと大きな相違があることであろう。神に栄光を帰すために用いるかわりに、自己を高め

手を差し伸べることによってキリストを映す

るためにこの賜物を用いる者がなんと多いことであろう。不注意な者は、音楽を愛好する心から、世俗愛好者と一緒になって、神が神の子らに行くことを禁じられた快樂の集会に行くようになる。こうして、正しく用いられるならば、大きな祝福であるものが、義務と永遠のことがらを瞑想することから人の心をそらすサタンの最も有効な道具となる。

音楽は、天の宮廷の神の礼拝の一部になっている。であるから、われわれは、できるかぎり、天の合唱隊と調和した声で、賛美の歌をうたうように努力しなければならない。声の正しい訓練は、教育の重要な一面であって怠ってはならないことである。歌は、祈りが礼拝の行為であるのと同様に、宗教的礼拝の一部である。(人類のあけぼの下巻 256, 257)

8月30日

キリストのための奉仕の喜び

「豊かにまく者は、豊かに刈り取ることになる。」(コリント第二 9:6)

伝道とは奉仕を意味する。そしてこの伝道にわたしたちはみな召されている。だれでも自己を喜ばせる生涯を選ぶ者は、神を辱めているのである。わが兄弟姉妹がた、あなたがたは幾千もの魂が毎年、自分たちの道に真理の光がひらめいたことがなかったがゆえに、その罪のうちに滅び、死につつあることに気づいているであろうか。……

わたしたちの世になすべき大きな働きがある。男女が改心しなければならぬ。言葉の賜物によってではなく、あるいは奇跡を働くことによってでもなく、十字架につけられたキリストを宣布することによってである。なぜ世をより良くするための努力を遅らせるのか。なぜ何か素晴らしいことがなされるのを、あるいは何か高価な装置が備えられるのを待つのか。あなたの領域がどれほどつましいものであっても、あなたの働きがどれほど低いものであっても、もしあなたが救い主の教えに調和して労するならば、このお方はあなたを通してご自身を表して下さり、あなたの感化力はこのお方に魂を引きつけるものとなる。このお方は柔和で低い者、すなわち真剣にご自分に奉仕しようと求めている者を尊ばれる。わたしたちのなすすべてのことに、わたしたちの働きが商店であっても、農場であっても、事務所であっても、わたしたちは魂を救うために努力すべきである。

わたしたちは自分の魂を神の愛のうちに保ち、昼の間に働き、自分たちにゆだねられた手段をご主人の奉仕に用いることによって、あらゆる水のほとりにまくべきである。わたしたちの手がなし得ることは何でも、快活になすべきであり、どのような犠牲を払うように求められても、快活にその犠牲を払うべきである。わたしたちがあらゆる水のほとりにまくとき、わたしたちは次の言葉

手を差し伸べることによってキリストを映す

の真実さを悟るようになる、「豊かにまく者は、豊かに刈り取ることになる」。

わたしたちはすべてを恵みに、最高の恵みに負っている。恵みはわたしたちの贖いを、わたしたちの再生を、そしてイエス・キリストと共に相続人となるための養子縁組を命じる。この恵みがほかの人々に表されるようにしよう。

救い主は形成されることがわかる人を受け入れ、彼らをご自身のみ名の栄光のためにお用いになる。このお方はほかの人々が見過ごしにする材料をお用いになり、ご自分に献身するすべての人のうちに働いて下さる。このお方は一見見込みのない材料、すなわちサタンが墮落させ、自分の働きをするために用いてきた人々を受け入れ、ご自分の恵みの臣下とすることをお喜びになる。このお方は彼らを苦悩から、また不従順な者の上に下る怒りから救出することをお喜びになる。このお方はこの働きを成し遂げるにあたりご自分の子らをご自分の代理人となさる。そして、その成功のうちに、この生涯においてさえ、彼らは貴重な報いを見出すのである。

しかし、最後のあらわれの大いなる日に彼らのものとなる喜びと比べるならば、これは何になろう。(ビュー・アソド・ヘラルド 1905 年 1 月 5 日)

8月31日

手を差し伸べることの永遠の報い

「むしろ、宴会を催す場合には、貧しい人、体の不自由な人、足の悪い人、目の見えない人などを招くがよい。そうすれば、彼らは返礼ができないから、あなたはさいわいになるであろう。正しい人々の復活の際には、あなたは報いられるであろう」(ルカ 14:13, 14)

キリストの働き人の報いは、このお方の喜びに入ることである。この喜びはキリストご自身が熱烈な願いをもって望み見ておられたものであり、御父に対するこのお方の願いに表されている、「あなたがわたしに賜わった人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい」。

御使たちは、イエスが復活後に昇天なさったとき、イエスを迎えようと待ち構えていた。天の万軍は、死の牢獄から自分たちのもとへ戻ってこられた愛する自分たちの司令官にもう一度あいさつすることを切望していた。彼らはこのお方が天の門に入られた時に、熱烈にこのお方の周りに押し寄せてきた。しかし、このお方は手を振って彼らを後ろに戻される。このお方の心はご自分がオリブ山上に残してこられたさびしく悲しんでいる弟子の一団と共にあった。その心は、なお地上で苦闘しているご自分の子らと共にあった。彼らにはまだこれから行わなければならない破壊者との戦いがあった。「父よ、あなたがわたしに賜わった人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい」とこのお方は言われる。

キリストの贖われた者たちは、このお方の宝石であり、このお方の尊い特別な宝である。「彼らは冠の玉のように(なる)」—「聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだもの(聖徒たちにおけるこのお方の嗣業の栄光の富)」。彼らのうちに「自分の魂の苦しみにより光を見て満足する」。

そしてこのお方の働き人たちは、自分たちの働きの実を見ると、喜ばない

手を差し伸べることによってキリストを映す

であろうか。……

人々を善と神へ導く聖霊の一つひとつの衝動は天の書に記録されている。そして神の日に、聖霊の働く器として献身したすべての人々は、自分の生涯が何をなしたかを見ることが許されるのである。

一連の聖なる感化力としてのあらわれが、その貴重な結果と共に、目の前に示されるとはなんとすばらしいことであろう。天の宮廷でわたしたちと会う魂が、自分たちの救いのために払われた同情と愛の関心を理解するとき、なんと感謝することであろう。すべての讃美、誉れ、栄光は神とわたしたちの贖いのための小羊に捧げられるべきである。しかし、神が今にも滅びるばかりであった魂の救いにお用いになった器に感謝を表すことが、神の栄光を差し引くものとなることはない。

贖われた者たちが自分の注意を上げられた救い主に向けた人々と会い、認める。彼らはこれらの魂となんと祝福された言葉を交わすことであろう!『わたしは罪人でした。……そしてあなたがわたしの所へ来て、わたしの注意をわたしの唯一の希望として尊い救い主に向けてくれたのです。そしてわたしはこのお方を信じました』と語られるであろう。……これらの贖われた人々が、自分のために重荷を負ってくれた人々と会い、あいさつを交わすとき、なんとという喜びがあることであろう! (ビュー・アンド・ヘルド 1905 年 1 月 5 日)

研究 14

三重のメッセージ



第三天使のメッセージ

Part 1

回復の働き

「すると、御座にいますかたが言われた、見よ、わたしはすべてのものを新たに作る。また言われた、書きしるせ。これらの言葉は、信ずべきであり、まことである」(黙示録 21:5)。

「わたしたちの贖罪のために要求された犠牲の無限の価値は罪が恐るべき悪であることを示している。罪によって人間の全身が障害をきたし、頭脳が乱れ、想像力が腐敗する。罪が魂の能力を低下させ、外部からの誘惑に反応するものが心の中にあるため、人間は知らず知らず、悪に向かうのである。

わたしたちのために払われた犠牲が完全であったように罪の汚れから回復することも完全であるべきである。神の律法は悪い行動はいかなることでも許さない。その断罪を免れうる不正は一つもない。福音の倫理は傷なき神の品性以外には標準を認めない。キリストの生涯は、律法のすべてのいましめの完全な成就であった。彼は「わたしがわたしの父のいましめを守った」と仰せになった(ヨハネ 15:10)。その生涯は服従と奉仕の模範である。神だけが人の心を新しくすることができる。「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」(ペリピ 2:13)。しかしわたしたちは、「自分の救いの達成に努めなさい」と命じられている(ペリピ 2:12)。

わずかな、断片的な努力によっては誤りを正すことも、行いを改めることもできない。品性をきずくのは一日や一年の仕事ではなく、一生の仕事である。自己に打ち勝ち、きよくなり、天国にはいるための戦いは一生の戦いであって、絶えざる努力と活動なしには、神聖な生活の進歩も、勝利者の冠を獲得することもできない。

高い状態から人間は墮落したという最大の証拠は、元の状態に帰るのにこれほど犠牲が必要だという事実である。一瞬間の軽率、不注意な行動によって悪の力に支配されることがあるが、その鎖を破ってさらにきよい生活に達するには一瞬間ではできないのである。決心ができ、実行し始めても、それを完成するには苦労と時間と不屈の努力と忍耐と犠牲がいる。

わたしたちは衝動によって行動してはならない。一瞬も警戒をゆるめてはならない。数知れぬ誘惑の攻撃を受けるのであるから、かたく抵抗しなければ征服されてしまう。仕事が未完成のまま人生の終りに至るならばそれは永遠の損失である。(ミストリー・オブ・ヒーリング 433, 434)

「ゼルバベル、エズラ、ネヘミヤの指導のもとに、帰還した捕囚たちが行った回復と改革の働きは、この地上歴史の最後の時代に行われるべき、霊的回復の働きの情景を示している。イスラエルの残りの民は、敵の襲撃にさらされた弱い民であった。しかし神は、彼らによって、神ご自身とその律法についての知識を地上に示そうとなさった。彼らは真の礼拝の擁護者であり、聖なる言葉の保管者であった。彼らは神殿を再建し、エルサレムの城壁を建設したときに、様々の経験をしたのである。彼らは強力な反対に当面しなければならなかった。この工事の指導者たちの負った荷は、実に重かった。しかしこの人々は、神が真理に勝利をお与えになることを信じつつ、揺るがぬ確信と謙遜な精神と、神に対する固い信頼をもって前進した。……

ネヘミヤの時代に推進された働きが象徴していた霊的回復が、次のイザヤの言葉の中に示されている。「彼らはいにしへの荒れた所を建てなおし、さきに荒れすたれた所を興し、荒れた町々を新たに」する。「あなたの子らは久しく荒れすたれた所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる」(イ

ザヤ書 61:4, 58:12)。

広く一般が真理と正義から離反しているときに、神の国の基礎である原則を回復しようとする人々のことを、預言者はここで描写しているのである。彼らは神の律法の破れを回復する人々である。すなわち神の律法は、神が選民を保護するために、彼らの周りに置かれた城壁であって、その正義、真理、純潔である戒めに従うことが、彼らを永久に保護するのである。

預言者は間違えようのない明白な言葉で、城壁を建設するこの残りの民の、特別な働きを指示している。「『もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う』。これは主の口から語られたものである」(同 58:13, 14)。

終末時代に、神のすべての制度が回復される。人間が安息日を変更したときにできた、律法の破れが回復される。神の残りの民は改革者として世の前に立ち、神の律法がすべての永続的改革の基礎であって、第四条の安息日は創造の記念であり、常に神の力を思い起こさせるものであることを、示さなければならない。彼らは明白な言葉で、十誡のすべての戒めに服従する必要性を示さなければならない。彼らはキリストの愛に動かされて、キリストと共に力を合わせて、荒れすたれた所を復興しなければならない。彼らは、破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者、とならなければならないのである(イザヤ書 58:12 参照)。

万物が回復されなければならない

「人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである。」(ルカ 19:10)

「イエスはご自分が人と神との間のとりなしをなさるために人になられた。……このお方は、人がサタンの魅惑的な誘惑を通してエデンで失ってしまった

元々の思いを回復することができるために人となられたのである。」（彼を知るために 291）

「わたしたちはカルバリーの十字架のうちに、墮落した人類に救いをもたらすために神の御子がどれほどの価を支払われたかを見る。人類のための犠牲が完全であったように、罪の汚れからの回復も徹底的で完全でなければならない。」（レ・ユー・アンド・ヘラルド 1888 年 8 月 21 日）

「羊の群れのやぐら、シオンの娘の山よ、以前の主権はあなたに帰ってくる。すなわちエルサレムの娘の国はあなたに帰ってくる。」（ミカ 4:8）

「サタンは首尾よく人間を服従の道から離反させたために、「この世の神」となった（コリント第二 4:4）。かつてアダムのものであった統治権が、横領者の手に移った。しかし神のみ子は、この世界に来て罪の価を払い、こうして人類を贖うだけでなく、失われた統治権をも回復しようとなさったのである。ミカが預言したのは、この回復のことである。」（国と指導者下巻 280）

「アダムの墮落によって失われたものは何でも、贖いによって以前にまさって回復される。」（レ・ユー・アンド・ヘラルド 1888 年 6 月 7 日）

「答えて言われた、確かに、エリヤがきて、万事を元どおりに改めるであろう。」（マタイ 17:11）

「このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかねばならなかった。」（使徒行伝 3:21）

「この地上における神の最後の働きにおいて、神の律法の標準はふたたび高められる。偽りの宗教は普及し、不法ははびこり、多くの人の愛は冷え、カルバリーの十字架は見失われ、死のとばりのような暗黒が世界を覆うことであろう。一般の風潮は、あげて真理に反対するであろう。神の民を滅ぼすために次々と策略がめぐらされることであろう。しかし最大の危機において、エリヤの神は、沈黙させ得ない使命の伝達者を起こされるのである。」（国と指導者上巻 155）

律法の回復

「主はおのれの義のために、その律法を大いなるものとし、かつ光荣あるものとするを喜ばれた。」(イザヤ 42:21 英語訳)

「わたしが律法や預言者を廃するためにきた、と思っ**て**はならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである。よく言っておく。天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすた**る**ことはなく、ことごとく全うされるのである。それだから、これらの最も小さいい**ま**しめの一つでも破り、またそうするように人に教えたりする者は、天国で最も小さい者と呼ばれるであろう。しかし、これをおこ**な**いまたそう教える者は、天国で大いなる者と呼ばれるであろう。」(マタイ 5:17～19)

「道徳律も儀式上の律法も、キリストご自身がお与えになったのであった。イエスはご自分の教えに対する人々の信頼を破壊するためにおいでになったのではなかった。ユダヤ人のまわりに築かれている伝統的な資格という壁をイエスが打破しようとされたのは、律法と預言者とを非常にとうと**ば**れたからであった。イエスは律法についてのまちがった解釈をとり除かれたが、その一方では、弟子たちがユダヤ人に委託された重大な真理を放棄するようなことのないように注意深く警戒された。

パリサイ人は、自分たちが律法に服従していることを誇っていた。しかし彼らは、毎日の生活を通して、律法の原則をほとんど知ってい**な**かったので、彼らには救い主のみことばが異端のようにきこえた。イエスが、真理を下にうずもれさせていたがらくたをとりのぞか**れ**ると、彼らは、イエスが真理そのものを一掃しておられるのだ**と思**った。彼らは、イエスが律法を軽んじておられると、互いにささやき合**っ**た。イエスは彼らの心の思いを読んで、こうお答えになった。「わたしが律法や預言者を廃するためにきた、と思**っ**てはならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである」(マタイ 5:17)。ここにイエスはパリサイ人の非難を反**ば**くしておられる。イエスは律法を破**っ**ておられると彼らが非難しているその律法の聖なる要求を擁護することが、イエスの世に対する使命である。もし神の律法が変更したり廃止したりできるもの**だ**った

ら、キリストは、われわれの罪とがの結果を身に負われる必要はなかった。イエスは、律法と人との関係を説明し、自ら律法に従う生活をすることによって、その戒めを例示するためにおいでになった。」(各時代の希望中巻 12, 13)

「しかしイエスは言われた、いや、めぐまれているのは、むしろ、神の言を聞いてそれを守る人たちである」(ルカ 11:28)。

律法を確立するために召される

「主は言われる、見よ、わたしがイスラエルの家とユダの家とに新しい契約を立てる日が来る。この契約はわたしが彼らの先祖をその手をとってエジプトの地から導き出した日に立てたようなものではない。わたしは彼らの夫であったのだが、彼らはそのわたしの契約を破ったと主は言われる。しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にする。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。」(エレミヤ 31:31 ~ 33)

「すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである。」(ローマ 3:31)

「救い主は律法に服従した一生によって、律法の要求を支持された。それは人性のうちにあっても律法を守ることができることを証明し、律法に従うことによって養われる品性のすばらしさを示した。キリストのように律法に従う者はみな同じように、律法が「聖であって、正しく、かつ善なるものである」ことを宣言しているのである(ローマ 7:12)。一方、神の戒めを破る者はみな、律法が不正であって従うことのできないものであるというサタンの主張を支持しているのである。こうして彼らは大敵サタンの欺瞞の後おしをし、神をはずかしめる。彼らは神の律法に最初に反抗した悪者サタンの子らである。もし彼らを天にいれるなら、ふたたび不和と反抗の要素が持ちこまれ、宇宙の幸福は危険にさらされるであろう。律法のただ一つの原則でも、これを故意に無視する者は、だれも天国にはいることができない。」(各時代の希望中巻 15)

「ただ律法とあかしとに求めよ。もし彼らがこれらの言葉に従って語らないならば、それは彼らのうちに光がないからである。」(イザヤ 8:20 英語訳)

「シナイで律法が布告されたとき、神は、ご自分の品性の聖なることを人々にお知らせになったが、それは、対照的に彼らが自分自身の品性の罪深さをみとめるためであった。律法は、彼らに罪を自覚させ、彼らに救い主が必要であることを明らかにするために与えられた。律法は、その原則が聖霊によって心に適用されるときに、この働きをするのであった。律法はいまもなおこの働きをするのである。キリストの一生には律法の原則が明らかにされている。神の聖霊が心にふれるように、またキリストの光が、罪を洗い清めるキリストの血と人を義とするキリストの義の必要とを人々に明らかにするように、信仰によってわれわれが義とされるために、律法は今もなおわれわれをキリストにみちびく手段である。「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ」(詩篇 19:7)。」(各時代の希望中巻 14)

天にある契約の箱

「そして、天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契約の箱が見えた。また、いならずまと、もろもろの声と、雷鳴と、地震とが起り、大粒の雹が降った。」(黙示録 11:19)

「冒瀆的な思いと心を持った人々は、自分たちはエホバの時と律法を変えるほどの力があると思った。しかし、天の記録保管庫、すなわち神の箱には、元々の律法が、二枚の石板に記されてある。どんな地上権力者もこれらの石板を恵みの座の下に神聖に隠されている場所から取り出す力はない。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 972)

「天にある神の聖所が開かれたとき、契約の箱が見えた。天の聖所の至聖所の中に、神の律法が大切に安置されている。それは、神ご自身がシナイの雷鳴の中で語り、ご自分の手で石の板に書かれた律法であった。天の聖所にある神の律法は、大いなる実体であって、石の板に刻まれ、モーセによって五書の中に記録された戒めは、その正確な写しである。この重要な点を理解

するに至った人々は、こうして、神の律法の神聖さと不変性を知ることになった。彼らは、『天地が減び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである』という救い主の言葉の力を、これまでになく悟った(マタイ 5:18)。神の律法は、神のみこころの啓示であり、神の品性の写しであるから、『天における忠実な証人のように』(詩篇 89:37 英語訳)永遠に続かなければならない。一つとして廃された戒めはない。一点、一画も変更されてはいない。『主よ、あなたのみ言葉は天においてとこしえに堅く定まり、』『すべてのさとしは確かである。これらは世々かぎりなく堅く立ち』と詩篇記者は言っている(詩篇 119:89, 111:7, 8)。(各時代の大争闘下巻 152)

真の安息日はその正当な位置に回復されなければならない

「安息日は神とその民を結ぶ留め金である。しかし安息日の命令は、破られてきた。神の聖日は冒瀆されてきた。安息日は不法の者によってその位置からむしり取られ、その代わりに通常の労働日が高められてきた。イザヤ 58 章には、神の民がなすべき働きの要点が述べられている。律法に破れができたが、この破れは繕われなければならない。真の安息日が神の休息日としてその正当な位置に回復されなければならない。律法は大いなるものとされ、誉あるものとされなければならない。この働きをする人々に向かって主は「あなたは破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者と呼ばれるようになる。もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う。これは主の口から語られたものである」と仰せになる。(ビュー・アソド・ヘラルド 19020 年 10 月 28 日)

「第四条の安息日もこれと同様である。神の律法は重要でないと思われる。創造の記念として人に与えられた真の安息日は、神の神聖なご命令としての正当な位置から取り除かれ、その代わりに偽りの安息日が高められ、拝

されてきた。生きた、試金石となる原則は、諸々の星が天空で消滅するといわれているように、見失われてきた。しかし、メッセージ、すなわち第三天使のメッセージが真理をその正当な位置に高めるために世に伝えられた。それはこの終わりの時代の試金石となる神の真理としてそれが堅く立つためである。神のご要求がことごとくその本来の新鮮さと力のうちに世に伝えられなければならない。」（ユース・インストラクター 1898 年 10 月 20 日）

をまちがったところへむりやりはめこもうとするかもしれません。「それは教訓に教訓、教訓に教訓、規則に規則、規則に規則。ここにも少し、そこにも少し教えるのだ」(イザヤ 28:10)。

「教訓に教訓」という考えは、初期の再臨(さいりん：イエスさまがふたび来られること)運動の信徒たちが用いた研究方法でした。彼らは、ウィリアム・ミラーのように神をおそれる人々でした。彼は聖書の完全なコンコルダンス(用語索引：同じことばが出ている聖句を比較できるように、用語ごとに聖句を集めた索引)をもちいて、ある言葉が聖句でもちいられている例を一つずつ深く研究しました。信徒たちがこの方法をもちいたとき、正しい絵がぴったりはまってあらわれました。それは一半分のできあがらないジグソー・パズルではなく一完全であり、全部でした。

ときどき、人々が強情(ごうじょう)になると、むりやり聖書が本当は言っていないことを言っていることにしようと一ちょうど、むりやりジグソー・パズルをはめ込むように一します。彼らはなにかを知ってはいますが、そこで自分たちの研究をやめてしまって、本当の答えをもとめて忍耐(にんたい)よく神さまの言葉をさぐるかわりに、自分たちが言いたいことを聖書に言わせようとするのです。これこそ、キリストの時代にパリサイ人たちがしていたことであり、悲しいことに、今日、多くの人々がしていることです。

ですから、今度、みなさんがジグソー・パズルを見たときには、それがどれほど、神さまの言葉を研究する方法に似ているかを考えてみてください。忠実(ちゅうじつ)にみ言葉を研究し、柔和(にゅうわ)にこのお方のみ旨(むね)に明けわたすことによって、みなさんの生活は、神様ののぞまれる美しい芸術品(げいじゅつひん)のようになります。そしてついに、今よりずっと幸せになりますよ！

お手軽フライドポテト

ーフライドポテトをオーブンでー

〔材料〕

ジャガイモ 大 2 個

塩 適量

オリーブオイル 適量

〔作り方〕

1. ジャガイモを 7-8mm くらいに細切りにします。
2. オーブンを 180 度くらいで温め始めます。
3. 熱したフライパンに少し多めのオリーブオイルを入れて、ジャガイモを炒め、塩をふります。
4. 油がジャガイモ全体にまわり、すこし透明感が出てきたら、クッキングシートを敷いたオーブントレーにジャガイモを重ねないように並べまして、オーブンに入れます。
5. 20 分くらいから様子を見はじめて、きつね色がかれば、できあがり！

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)



【公開放送】 <http://www.4angels.jp>

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



パズルを組みあわせる

「わがすべての道があなたのみ前にあるので、わたしはあなたのさとしと、あかしとを守ります。主よ、どうか、わが叫びをみ前にいたらせ、み言葉に従って、わたしに知恵をお与えください。」(詩篇 119:168, 169)

みなさんは、ジグソー・パズルをしたことがありますか？ジグソー・パズルは、たくさんのきれいな絵から選ぶことができます。手が小さなおさな子どもには、大きくてぶあついパズルがあって、見てわかりやすい絵で作られています。もっと大きな子どもには、もっとややこしくて、同じ色のさまざまなものが入っているパズルもあります。そして、ついに、もっと経

験をつんだパズル人には、ごうかな自然の写真で 1000 ピースもあるようなパズルもあります。写真の中の葉っぱや植物には、さまざまな緑のかげがあるかもしれません。写真の一部は、いろいろな青い水や空があるかもしれませんし、もしかしたら幹(みぎ)や大枝(おおえだ)の茶色い木の皮のさまざまなかがたくさんある木の森かもしれません。このようなタイプのジグソー・パズルは組みあわせるのがたいへんです。ある人は、なに色かのピースをひとつ手にとって、ここかなと思ってみても、じつはぜんぜんちがうところに合うものかもしれません。人生のはじめのころに、むりやりピースをはめ込もうとするのは、絵が正しくできあがらないばかりか、ジグソー・パズルのピースをだめにしてしまうことさえあることを学びます。人生はいつでもそうであるように、ずるいことをしても決して得(とく)はしません。

聖書を正しく理解するのは、美しいジグソー・パズルを組みあわせるようなものです。もしわたしたちが忍耐(にんたい)づよく、注意ぶかかないなら、まちがったピース

